

# 中 川高同窓会報



埼玉県立川越高等学校同窓会

【同窓会】電話・FAX (049)225-9071 (直通) <http://alumni.gnk.cc/>

〒350-0053 川越市郭町2-6 川越高校内

【学 校】電話 (049)222-0224 (学校) <http://www.kawagoe-h.spec.ed.jp/>

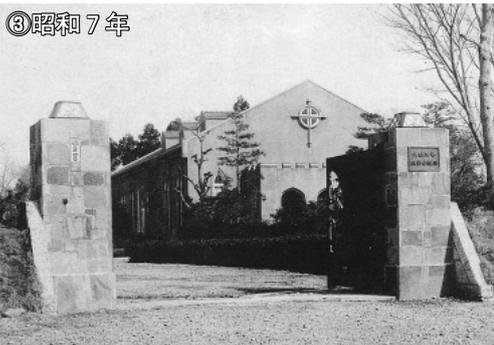
①明治32年



②大正元年



③昭和7年



⑤平成11年



④昭和27年



## 目次

会長挨拶 会長 田中正……………2

総会のご案内……………2

校長挨拶 校長 松下幸夫……………3

同窓会が変わります……………3

母校だより(一) 人事異動 転任挨拶……………4

初雁会だより 地区初雁会紹介……………5

秋季散策会……………9

21年度報告 日高初雁会  
22年度案内 在京初雁会

同窓会各分野の活動

(1)クラブOB会……………10

音楽 美術 吹奏楽 陸上競技  
野球 剣道 庭球 山岳

(2)同期会等……………11

中47・高1回 高3回 高5回  
飯能初雁ゲートル会

(3)くすの木句会……………12

母校だより(二)

創立110周年記念講演会……………13

母校だより(三)

SSH事業報告……………14

母校だより(四)

進路状況 部活動報告……………16

連続論考

初代校長 増野悦興の謎(八)……………17

事業報告 会計報告……………18

事務局通信 表紙写真説明

編集後記……………20



いあいさつ

会長 田中正

会員の皆様におかれましては、ますますご清栄の事とお慶び申し上げます。皆様の力強いご支援のお陰で、同窓会はますます充実、発展してまいりますこと心より感謝申し上げます。

昨年の母校創立百十周年の記念事業の一環である第十九号の会員名簿は、予定通り十一月に発刊することが出来ました。同窓会会員の皆様および関係者の皆様の絶大なご支援、ご協力に深く感謝申し上げます。昨年の総会で決定されました常駐事務局の設置・同窓会報の会員全員発送につき、その後の経過をご報告申し上げます。まず常駐事務局の設置は予定通り二十一年度初めに設置し、現在、同窓会活動全般に渡り活発に活動しており、期待通り同窓会の運営がスムーズに展開されております。特に会員名簿発刊に関しまして、会員との連絡印刷会社との打ち合せ等に尽力してくれました。同窓会報全員発送につきましては、同窓会報の内容等につき再検討していただく必要があり、昨年十月に同窓会報編集委員会を組織しました。委員長に高校第十一回卒業の尾崎勝美氏を選任し、本年度の会報第六十六号の発行について会議を重ね、ご検討いただきました。その結果、発送は同窓会名簿発刊で住所が判明している会員約二万三千人に対しておこないます。発送時期は同窓会総会等、重要事項を案内する必要から四月中旬を目途とすることになりました。同窓会報掲載内容は、同窓会総会・秋季散策会の案内・十九の初雁会の活動状況報告、母校だよりとして人事異動・進路

状況等、事務局より事業報告・会計報告等を、従来より大幅にスリム化して二十頁にまとめることにしました。同窓会報の全員発送により、同窓会と会員・学校との絆がより一層強くなるものと期待しております。

同窓会会費につきましては、学校のご努力、在校生のご協力で平成二十三年度以降の卒業生から卒業時に二万円を納入していただくことになっております。お陰で念願の常駐事務局の設置、同窓会報の会員全員発送が可能となりました。同窓会終身会費五千円につきましては、今年度は高校第三十七回生(昭和五十九年度卒業)が該当いたしますので、是非、納入願います。

同窓会の学校に対する協力は、従来通り新入生に対して校歌・応援歌のCD配布、学校活動特別補助費としてSSH運営支援費、進路充実のための図書費の贈呈、さらに学校の百十周年記念事業の補助をおこないました。例年、輝かしい実績を残しております。SSHは五年目を迎えております。昨年は三年生の富永君が日本代表として国際地学オリンピック大会に出場、みごと銀メダルを獲得しました。本件は新聞各紙にも報道されました。

同窓会の社会貢献活動の一環として、現在改修中の川越城本丸御殿に協力を致したいと思っております。同窓会総会にお諮りする予定であります。

昨年の総会における記念講演は、高校第十一回卒業の国際的に活躍する現代彫刻家、長澤英俊氏に「現代アートにおけるアイデアの世界」という演題で講演をいただきました。

映像とパワーポイントを駆使し、氏の代表作についての解説をいただきました。そのスケールの大きな作品に圧倒されました。なお長澤氏には懇親会にもご出席いただきました。長澤作品の展示会が七月から九月にかけて県内三箇所の美術館で同時開催されました。美術部出身の同窓生が中心となり二百二十名の会員で、長澤作品を一人でも多くの方に鑑賞していただきたいということで「長澤英俊展サポーター会議」を結成し応援いたしました。今年は高校第三十五回卒業の安藤優一郎氏に「坂本龍馬と岩崎弥太郎」について講演を頂くことになっております。安藤氏は、江戸をテーマとする執筆・講演活動を行なっております。

昨年の散策会は日高初雁会主催で、十月四日に聖天院・高麗神社のコースに百七名の参加者で盛大に開催されました。聖天院本堂前で横田住職より講話をいただき、高麗神社では高麗宮司に境内のご案内をいただきました。天候にも恵まれ歴史の里の散策を満喫いたしました。懇親会は「日本料理あさひ」で開催され、手品の披露等もあり和気あいあい楽しい一時を過ごしました。

日高初雁会の皆様には大変お世話になりました。本年は在京初雁会主催で十月九日(土)に開催します。コースは江戸深川発祥の地を中心に散策し、懇親会は清澄庭園内の大正記念館でおこないます。皆様、奮ってご参加ください。

本年度の同窓会総会ならびに懇親会は五月九日(日)に川越水川会館にて開催いたします。会員皆様のご参加をお願いいたします。本年は同窓会報が全員に発送されますので、皆様からのご提案、ご意見等をお聞かせください。期待しております。今後母校教育の一層の充実、発展と同窓会活動の活性化のため尽力いたしたいと思っております。会員の皆様のご支援、ご協力をお願い申し上げます。

# 総会のご案内

5月9日(日) 9:30より受付 会場 氷川会館 (川越氷川神社境内) 電話049-222-8417

会場が例年と変更になったことにご注意ください

総会	10:00~	3階	孔雀の間 (予定)	記念講演	演題 「龍馬を継いだ男 岩崎弥太郎」
記念講演	11:00~	//	// (//)	講師	安藤 優一郎 (高35回卒) 歴史家 文学博士 (早稲田大学)
懇親会	12:20~	3階	鳳凰の間 (予定)		江戸をテーマとする執筆・講演活動を展開中、『幕末維新 消された歴史』『龍馬を継いだ男 岩崎弥太郎』他著書多数

※参加申込 同封別紙『同窓会総会参加申込のご案内』の下部についている申込ハガキを使ってお申し込みください



## 平成二十一年度を顧みて

校長 松下 幸夫

平成二十一年度の学校の様子について何点か報告いたします。

まず何と言ってもインフルエンザに振り回されました。保健室の記録によりますと、全日制では二学期にインフルエンザに罹患して出席停止などになって学校を休んだ生徒が約三四〇名で、在籍生徒一〇九五名の三人に一人の割合です。また学級閉鎖をしたクラスが全二十七クラス中十五クラスで、このうち四クラスは二回閉鎖になりました。

さらに二年生の修学旅行では出発当日に欠席した生徒が十一人、出発はしたものの旅行中に発熱があり、やむを得ず途中で団を離れ保護者の方に迎えに来ていただいた生徒が九人おりました。このようなことは三十年以上教員をしている私も、いまだかつて経験したことのない異常な事態でしたが何とか乗り切ることができました。定時制では影響はほとんどありませんでした。

次に、百周年記念事業を実施いたしました。今回は百周年の時のような規模の大きな行事開催ではなく、百周年記念事業として合計四件の事業を企画実施いたしました。一つ目に川高OBによる記念講演会、二つ目に百周年以降の十年分の資料収集、三つ目に、仮称ですが「川越高校の歩みコーナー」です。これは図書館棟へ続く長い渡り廊下の壁に本校に関係する古い歴史的な写真などが掲げられているものです。最後に自転車置き場の設置です。理科棟前にわずかな広さですが新たに設置しました。

特に記念講演会では高校十四回越生初雁会の宮崎照宣先生から御講演をいただきました。宮崎先生は東北大学に進学され現在東北大学教授で応用物理学が専門です。コンピュータの中にある記憶媒体であるスパインエレクトロニクス研究の第一人

者であります。

当日は「研究生活四十年」という演題で、越生の中学校、川越高校、東北大学のこと、そして先生の研究であるスパインエレクトロニクスのこと、さらに後輩である川高生徒に期待することなどをわかりやすくお話いただきました。会場には、生徒や教職員に加え、PT会、後援会、同窓会の皆さまにも御参加をいただき、本校関係者こぞって百周年のお祝いの気持ちを表しました。

最後に定時制生徒の活躍についてです。本校定時制は、定時制高校再編整備のため平成二十年から募集を停止し、今年度は三年生と四年生だけの五十八名が在籍しています。平成二十一年十一月に、三年生の鈴木麻衣さんが定時制通信制高校生生活体験発表会で全国優勝を果たし文部科学大臣賞を受賞しました。生活体験発表とは定時制通信制高校に特有の教育活動で、全国の定時制通信制高校に学ぶ生徒が自ら学校生活や職場生活、また、地域の活動等をテーマに意見や提言、将来の希望・意欲等を発表する大会です。

定時制課程のこの快挙に、全日制の新聞部が新聞部始まって以来初めて定時制の記事を掲載し、定時制の活躍を全日制の生徒も一緒になってお祝いしてくれました。校長としてこんなうれしいことはありません。二学期の終業式でこの新聞部の話をして全日制の生徒を心から賞賛しました。

以上三点ほど学校の様子を報告させていただきましたが、もちろんこの他にも部活動や大学進学など今年度もあらゆる分野で川高生は大活躍しました。同窓会の皆さまの熱い期待に応えられるよう、百十年の歴史と伝統を持つ母校川越高校の発展のために生徒、教職員一同頑張つてまいります。

## 同窓会が変わります

### 同窓会事務局

本校同窓会は、設立102年目を迎えた平成21年度の定期総会で会則を大幅に改定して、緊急課題となっていた3案件を以下の通り実現することを決定し、次の百年の更なる発展を期して改革の一步を踏み出しました。

#### I. 会員全員に同窓会報の発送

昨年度まで同窓会報をお届けできていたのは推定3,000名程度の一部に限られた会員だけでしたが、今年度から宛先が判明している全会員(約23,000名)に発送できるようになりました。

全会員に会報を配布することは、特に本校同窓会のように急速に大規模化している場合には絶対に必要なことで、永年本校同窓会の悲願とも言うべき最重要な緊急課題となっていました。この決定を承けて編集委員会を新に立ち上げ、ここに全員配布会報「第1号」をお届けすることができました。

#### II. 常駐事務局の設置

本校同窓会では、事務局の業務をこれまで伝統的に校内

幹事が専ら担ってきましたが、同窓会の急速な大所帯化につれて膨脹してきた業務は質・量共に、現職職員である校内幹事の限界に達して、常駐事務局の設置は上記Iの会報全員発送と共に最重要課題になっていました。

学校側からの校内幹事担当職員の負担を軽減したいとの要望も受けまして、平成21年度から専任の事務局長が常駐する事務局を設置しました。

#### III. 会費納入規定の改正

同窓会会則第10条(会費)を「正会員は入会の際20,000円を納入するものとする」と改定しました。その適用は平成23年度卒業生からで、それ以前の卒業生については従前の規定によることになりました。

この会費納入規定の改定も永年の懸案でしたが、今回学校側の十分なお理解とご協力をいただきまして実現することができました。なお浦和・春日部高校等の同窓会では既に10数年も前から実施されていることですが、本校同窓会でもこれで上記I・IIの緊急課題実現を可能にする道が開けたのでした。  
(伊藤記)



# 初雁会だより

## 地区初雁会について

同窓会事務局長 伊藤 豊

本校同窓会では、通学圏内のほぼ全域に市又は町単位の一七初雁会、県外に在京と近畿の両初雁会、合計一九の地区初雁会がこれまでに設立されています。

他高校同窓会の支部組織に類するものですが、他校の場合のように初めから支部組織として全地域に設置されたのではなく、多くの場合、有志の方々が発起人として地域の同窓生に呼びかけて、いわば自主的に設立されてきました。

従って設立時期も区々で、一番早いが在京初雁会は一九五三年、一番新しい越生初雁会は昨年二〇〇九年で、その間半世紀以上の差があります。

このように自主的に設立され、それぞれ独自の活動を行っている地区初雁会ですが、現在は同窓会活動を推進する支部組織としての機能も充分に果たしています。そして今後、同窓会の急速な大世帯化の中で、同窓会活動の推進力として地区初雁会に果たして頂く役割は益々重要になってきます。

全員に配布する会報第一号の特集として、ここに一九の全初雁会に自己紹介をして頂きました。お読み頂いてご理解を賜り、まだ入会されていない方は、ぜひ地元のお雁会にご入会ください。また、まだ初雁会のない地区では、できるだけ早く設立されますことを願っています。

## 在京初雁会

事務局 岡部 恒雄

★創立は昭和二十八年。前身は東京川越中学同窓会(大正十二年創立)。戦後有志が、首都圏在住者を中心に銀座「ビルゼン」(斎藤憲吉氏経営、中十一回)で再発足。初代会長矢部謙次郎氏(中一回・NHK)、現会長は八代目高島敬忠氏(高一〇回)。現会員は八十四名。

★当初は、毎月一回ビルゼンで昼食会を四十年余開催、テレビ東京で放映される。現在は、花見散策会、六月の総会兼近況報告会、秋の講演会(直近は高一〇回・東大教授神部勉氏の渦の話)、母校同窓会総会・秋の散策会への参加、各会合には家族共々参加、女子部設置。会報「鐘つき堂」を年一回発行(最近号八十八号の講演会等の報告)★会費は年三千円。

★事務局・岡部恒雄

狭山市中央四一五九一五十五

☎(〇四)二九五九一八〇一六



秋の講演会・前列左三人目・神部勉氏、右隣が高島敬忠会長

## 飯能初雁会の歩み

副会長 渡辺 肇

飯能初雁会の歴史は、戦前飯能町ほか一二か村の川越中学校卒業生により、一九三二年(昭和六年)四月「西部初雁会」として発足し、戦後の昭和三十年頃まで活動しており、その後戦時中のゲートル巻きスタイルで通学した中学四四回から高校四回卒業迄の先輩諸氏が「飯能初雁ゲートル会」を発足させ、親睦を深めています。

このような経緯と創立八〇周年という記念すべき年を迎えて、飯能市・名栗村の全卒業生に声をかけ、母校の発展に寄与し、同窓生の親睦を図ることを目的に一九七八年(昭和五三年)五月二十八日約二〇〇名の参加者のもとで、「飯能初雁会」が誕生しました。

発足以来毎年五月の最終日曜日に総会を開催し、NHK解説委員岡村和夫先輩の時局講演は、二〇〇年余続いた恒例行事であり、その後バスケットでオリンピック三回出場の前藤博氏、元連合会長笹森清氏、報知新聞社長小松崎和夫氏など飯能出身者を中心に講演会を開催してまいりました。

その他事業剰余金で飯能市立図書館に「初雁文庫」の設置、年二回のゴルフ会、第三二号を迎える会報「はつかり」の刊行、青年活動への支援等諸事業を展開してまいりました。以上県下第一号初雁会として、他初雁会や会員との連携を益々密にして会の発展を図りたいと存じます。

なお、連絡先は次の通りです。事務局長 本橋孝之

☎(〇四)二九七二七三二五

## 小川初雁会の活動報告

会長 鈴木 智



比企丘陵の豊かな自然と文化をもつ「武蔵の小京都」小川初雁会は、平成二一年六月第二九回総会を「晴雲酒造・自然処玉井屋(中山雅義氏高一七回)で盛大に開催しました。その冒頭に、川高創立百十周年記念事業や、事務局が設置されたこと等同窓会の活動状況が報告されました。

そして、今回のメインイベントは、特別参加頂いた大竹一浩氏(高一三回)のアトラクションでした。プロ級のマジックや各地で収集した珍姓奇名、トリック文字など披露があり一同から大喝采を受けた次第です。

会員の活動報告としては、地酒販売「利根川商店」を営む利根川享一氏(高二一回)は、幕末期に禅、剣、書の大家として知られる山岡鉄舟に因み蔵元晴雲酒造の醸造協力を得て自らラベルを作成した純米吟醸酒「鉄舟の里」の特産販売をしています。山岡鉄舟はその知行地が町内にあったことから、当地を訪れ神社の幟旗の揮毫や小川和紙、二葉の「忠七めし」等小川の文化に功績を多く残しています。連絡先(会長)

☎(〇四)九三二七二四五四八

## 日高初雁会

事務局 大沢 昭雄

会の規約によると日高初雁会は昭和56年5月10日に発足しています。それから、29年の歴史があります。現在の会員数は150名、年齢は社会的に落ち着いた35歳前後から募集の呼びかけをしてきました。しかし若手の入会が少なく、働き盛りで地元を離れているケースが多く、定年後に戻った方や新しく日高市に住むことになった方に入会していただいております。

昨年7月5日(日)第24回総会を開催しました。所は5年前の国体の折に弓道会場となった文化体育館(ひだかアリーナ)の会議室です。この日は総会議事に先立って記念講演会を持ちました。それは会の目的に会員の親睦、母校の発展、それと地域社会に貢献するとあるため、講演会を一般の方々にも聞いていただくことを実施してみました。

講演の演題は「武州一揆」から「川越一揆」で、取材のあれこれと言う副題がついています。講師は当会員の栗田良助氏(中45回)で、前年に長編小説「小江戸に吹きまくつむじ風」を出版されたのを機に講演をお願いしました。この講演会の要約は今年3月発行の「ひだか初雁会報」21号に掲載されています。

この会報も会の事業のひとつで年一回発行しており、会の行事やお知らせ、短信など会員相互の情報交換にも役立っております。連絡先(事務局)

☎(〇四)二九八九一八三三五

### 入間初雁会

事務局 大野 勉

入間初雁会に入りませんか。 蛍に捜る鳥の跡、雪に尋ぬる文の道、大和心に西の才、雄飛の翼養いて、高き譽を初雁の、城址の月と輝かせ：川高校歌の3番は、現役時代は皆あまり歌ったことはなかったと思いますが、入間初雁会では毎年の総会の後の懇親会の最後に、皆で肩を組み合って必ず1番から3番まで斉唱します。この時が皆、入間初雁会に入っていて良かったなと思う瞬間でもあります。

入間初雁会は、入間市内に住所を有する川越中学校・高等学校卒業生を中心とした世代を超えた同窓会です。会員相互の親睦と研鑽を目的とし、創立以来26年経過する会員数150人の団体です。

毎年6月の第1か第2土曜日の午後6時30分から、入間市産業文化センターにおいて総会を開催し、各界で活躍されている本校OBを招いての総会記念講演会のほか、不定期ではありますが親睦ゴルフや、旅行等を開催しております。

狭山初雁会との親睦ゴルフや、川越女子高校の卒業生で組織された「初雁なでしこの会」との合同の懇親会を企画したこともありませ

これからも親睦や研鑽だけでなく、地域に貢献できるような組織になれるよう会員一同力を合わせて頑張りたいと思います。

連絡先

会長・原田雅義

入間市豊岡一丁目13番3号

事務局・大野 勉

入間市大字新久766

☎(04)29361151

### 近畿初雁会

会長 根岸 光明

本会は入会金ゼロ、年会費二千円、主な活動としては、年一回の総会・懇親会と、「近畿二府四県在住の同窓会会員名簿」の作成と発行、会員の「近況報告等」の発行等です。

最初の総会は一九九〇年八月に行なわれ、以後年一回、春から秋の間に行なわれてきました。総会の出席者数は、最も多い年は三十一名でした。近年は約十名です。

近年は、集合に最も便利な大阪市内の梅田で行なっています。総会は今年が二十一回目となります。

総会は、近年は六月の土曜日の夕刻に行なっています。

今年度の総会は、六月十九日から十六日の土曜日を予定しています。総会の案内等は五月下旬ごろに、近畿二府四県在住の全同窓会員に送らせていただきます。誘い合せて、できるだけ多くの方の出席、入会をお願い致します。本会の連絡先等は、



大阪府淀川区新北野 三二二一六一一

☎(06)63021187

### 坂戸初雁会

事務局 新井 彪

坂戸初雁会は平成四年に設立、十八年目を迎えた会員相互の親睦組織です。現在会員は二百四十一名で、高校三十四回卒業生までの方々に声をかけています。会長は高校八回卒の丸章夫さんです。

主な活動は、年一回の総会と同時に行なわれる講演会、親睦会の開催です。総会は、毎年秋頃北坂戸駅前オルモで行なわれ、四、五十人程度の方々に参加していただいております。先輩には、多方面で活躍される方も多く、親睦会は「同級会」であり、また「世代間交流会」でもあり、なかなか楽しい時間を過ごすことができます。

会員資格は、坂戸市出身、在住、在勤となりますが、現役世代の参加率が低いことも悩みの一つです。年会費は総会時に納めていただく二千円ですので、一度脱会された方でも、定年退職など時間に余裕ができましたら改めて参加されるのもいかがでしょうか。

会では今後、高校三十五回卒業以後の方々にも、是非参加してもらいたいと考えておりますので、先に同窓会で作成された平成二十一年度版の会員名簿をもとに、新たにご案内をさせていただきます。

川越高校同窓会の今後益々の発展をお祈り申し上げ、会報をお借りし、本会の紹介とさせていただきます。

連絡先(事務局) ☎(049)2831185

### 志木初雁会

事務局 神木 茂

志木初雁会は、川越中学校・川越高校卒業生の志木市在住・在勤者の親睦団体として、平成五年二月に設立されました。同窓会の地区初雁会としては、五番目の設立とのこと。

設立された平成五年十二月に創刊された志木初雁会報「紫紀報」を見ますと、志木初雁会を設立した諸先輩の生き生きとした文章など、その意気込みに圧倒されます。

諸先輩の数十年前も前の学校生活のことが、昨日のことのように詳細に書かれており、どの文章も母校愛にあふれています。

志木初雁会の会則は、会員相互の交流を深め、友情を暖めあい、同窓としての絆を強め、あわせて、母校と社会の発展に寄与することを目的としています。

現在、志木初雁会の会員は、名簿では、およそ六十人の登録がありますが、活動している会員は、半数のおよそ三十人です。主な事業としては、毎年五月に行われる母校同窓会への参加、志木初雁会の定期総会、母校同窓会秋季散策会への参加、会報の発行などでありながら、今後のことや近況報告など、会員の交流を図っていき

たいと考えております。志木市在住・在勤の卒業生の皆さん、地域で親睦を深めていきませんか。連絡をお待ちしています。

連絡先(事務局) ☎(049)2611500

### 和光初雁会の活動について

会長 田中 庸久

平成六年七月に発足いたしました和光初雁会は、平成二十一年七月で十五周年を迎えました。

当会は、年次総会、新年会を中心とした会合を通して、会員の親睦を図ることが主な活動で、その他に散策会への参加、近隣の初雁会との交流を行っております。現在の会員数は三二名で、年会費は三千円、入会金はありませぬ。

当会にも新会員の増加が少なく、平均年齢の増加という問題がありますが、更に楽しく活気のある会にするため、多くの方の入会を期待しております。

次に、最近の主な活動を紹介いたします。

◇総会開催 平成二十一年七月五日(日)、ホテルカテンツア光ヶ丘で開催いたしました。当日は松下幸夫川越高校校長をはじめ、近隣の初雁会会長のご臨席をいただきました。

◇新年会 新年会は、毎年二月の第三日曜日と決まっています。今年二月二十一日(日)に和光市駅前の「長屋門」で開催いたしました。

◇例年通り、上原昭二顧問書の新年会横断幕と、出席者による近況報告を酒の肴に楽しいひと時を過ごしました。

連絡先(会長) ☎(048)4611244

毛呂山初雁会

事務局長 関 清隆

毛呂山初雁会は毛呂山町に在住・在勤の同窓会五十四名で構成されています。顧問として第一回卒業生の内野林郎氏、会長は第二回の岸昭夫氏、副会長に第六回藤森貞夫氏、幹事は第七回島野光司氏等七名、会計には第二十三回西宮富士雄氏、監事第九回宮寺一也氏等の役員で構成されています。

定例会は研修会と懇親会を開催しており、多くの会員が参加しております。研修会では埼玉医科大学に勤務している同窓生の各科教授から、それぞれの専門分野の内容を分かり易く平易に講話をしていただいております。例えば第二内科教室循環器教授松本万夫氏(第二十二回)の講話は、今後の生活の参考になりました。また、特別会員の竹内恭子氏の講話「愉快に食べてすこやかに暮らす」も生活に直結した講話です。研修会後の懇親会では講師に対する質問が多く、実質のある研修会が開催されています。

また、自己紹介では定められた時間を超過して司会者よりストップの声が掛かることがあり、時間の経過を忘れてしまうようなやかな懇親会が開催されています。また、仮称「毛呂山初雁会随筆集」の発行を計画し現在原稿の募集をしております。内容は、川越高校在学中のこと、今のことや友達のことなど自由に書いて頂いております。多くの会員の方の投稿をお待ちしております。

連絡先(事務局) ☎(〇四九)二九四一〇三三四

鶴ヶ島初雁会

事務局長 渡辺 勉敏



本会は平成八年二月二五日に産声をあげ、早や一四年を迎えた。四年前の十周年にはいみじくも秋の散策会を開催することになりこの大仕事に実行委員一同奔走し無事完遂し

た安堵感が懐かしい。目的が会員相互の親睦を図りかつ母校の発展に寄与することであり、達成には日々の努力しかない。現在の運営は会長以下十二名の役員が活躍中で、会員数は七十四名で、原則として母校卒業後二十年を経過した時点で入会を勧奨しているが、殆どが当地には不在で会員数はここ数年微増に留まっている。今後は会員の若年化を図る会の活動運営をより活発にするためには会員拡大は重点課題である。役員会は年数回開催し会員への周知事項、行事催物、定期総会等の計画、実行を遂行している。特に総会と懇親会は一月下旬に会員の経営する割烹「さくら荘」開催が定例となっている。

卒業後の会員の人生進路も様々、総会後に恒例となっている会員による講演会も楽しみの一つである。連絡先(事務局) ☎(〇四九)二八五二三四五

東松山初雁会の近況

事務局長 大塚 基司

東松山初雁会は、平成九年発足以来、十三年を経過いたしました。現在、東松山市・滑川町・吉見町のOBによって活動しています。年間の主な事業としては、会報「奮え友よ」の発行、及び七月に総会を、二月に年始の会を開催し、それぞれ講演会を併催して、参加の皆様から好評を得ています。昨年は、六月に会報「奮え友よ」第十号を発行し、七月には同窓会長田中正様に御臨席を賜り総会を開催。講演会では、高十回卒・岩田剛吉氏に「上唐子・ホテルの里づくり」と題して御講演を賜りました。「東松山ホテルの里づくり」に、自治会長として積極的にかかわり、地域の人々の共通理解・合意形成を図りながら、関係者の協働によりモデル地区を造り上げた取組を、映像を駆使して説明いただきました。「足元にある大切な物や場所の共有」という講師の言葉が印象に残りました。

十月には、有志により第十三回東松山初雁会ゴルフコンペを開催し、親睦を深めました。毎年二月に開催している年始の会では、今年が高十回卒・坂本宗三郎氏から「方位のはなし」と題して御講演を賜りました。本年も、昨年同様の活動を予定しております。より多くの皆様の参加と、ご理解ご協力をいただきますようお願いいたします。連絡先(事務局) ☎(〇四九)三二二五〇三三三

東松山市箭弓町一十七十三利幸ビル内

川島桶川初雁会

事務局長 岡部 政一

私たちの初雁会は平成九年に川島町及び桶川市地域約七〇名の会員を以って発会となりました。初代会長には旧制中学第四回卒業の関口武が当り、二代矢部敬一郎、そして現在宇津木一雄が当っております。当会の目的には会員相互の親睦と母校の発展に寄与することが定められています。この目的を目指し、年に一度の総会と併せた講演会・懇親会を実施しております。その講演会講師には同窓生の中からその年のテーマにあわせ人選させていただいております。この事業を始めて以来十回以上になりますが、様々な先生にお出でいただき有意義な時間を過ごしてまいりました。懇親会には講師の先生にも出席願ひ、初に母校々歌を斉唱し、意気を高め、そして集合写真も忘れずに撮影。盛会裡の内に進み、皆さん楽しい一時になっています。

現在の会員は旧制と新制の方がおりますが同窓という繋がりで、あい助け合いながら会の事業や母校への支援活動を楽しんで行っているところがあります。当会はまた、年一度ですが、会報を発行しています。正副会長と事務局で毎年四月から企画会議を始め六月発行しています。会員に寄稿依頼しますが皆快諾され、寄せられる内容はその人の歩まれた人生がにじんでいます。今後若手の方の入会を待ち望んでいます。連絡先(会長) ☎(〇四九)二九七一九四五

連絡先(会長) ☎(〇四九)二九七一九四五

朝霞初雁会

会長 小寺 貞安

朝霞初雁会の創立は、平成十年十月に会員数八十三名にて発足し、総会や懇親会を開催し会員の旧交を暖め合っております。また、平成十二年七月には会報を創刊し、会員からの寄稿文と川越高校生の活躍状況などを紹介しております。平成二十一年度の総会は、新座市、志木市、和光市の各初雁会長に出席していただき、七月十八日に朝霞市民会館会議室にて開催し、平成二十年度の決算、平成二十一年予算案、事業計画などについて審議し、いずれも全員賛成で了解されました。引き続き、懇親会に入り、いろいろな話の中で特に注目されたのは、今後は夫婦同伴での出席や記念事業開催のこなどが出ておりました。

朝霞初雁会の事業は、総会、役員会の開催、懇親会の開催、会報の発行などが主なるもので、単独事業として特別な活動は行っておりませんが、教育関係やスポーツ団体、市民祭り、黒目川清掃活動の実行委員会などそれぞれの会員が個々に地域社会の中で活動し社会貢献しており、総会ではこれらの活動状況などを報告していただき、確認するとともに今後の活動に役立てております。

なお、会員の募集を随時行っております。沢山の会員の加入、連絡をお待ちしております。連絡先(事務局) ☎(〇四八)四六二二二二

フタバスポーツ店事務所

新座初雁会

会長・事務局 並木利志和

平成十年五月二十四日、「なみきの幼稚園」で設立総会が開催され、以来、昨年に十周年を迎えました。新座市は平林寺や野火止用水を中心に自然が残された環境があります。

新座市在住・在勤の方々が発員になっており、この恵まれた自然環境のなかで、会員相互の交流を暖めあい、同窓としての絆を強め、母校と社会発展のために、寄与するよう努めています。

会費は、年三千元で、入会金は二千元になっております。

活動は、総会を中心に母校行事、他の地区初雁会との交流、会報の発行を行っております。

平成二十二年度の役員を紹介しておきます。

- 名誉会長 荻島 浩(昭二十卒)
- 会長 並木利志和(昭二十卒)
- 副会長 渡辺 寛司(昭二十卒)
- 幹事長 池谷 正(昭二四卒)
- 幹事 鎌田 啓自(昭三二卒)
- 幹事 細沼 勇(昭三一卒)
- 幹事 星野 源一(昭三四卒)
- 幹事 高橋 保(昭三五卒)
- 会計 石井 信行(昭三八卒)
- 総務 小山喜代司(昭四八卒)
- 総務 山崎 糧平(昭四九卒)
- 監事 細沼 利輔(昭二三卒)
- 監事 新井 徳一(昭二九卒)

連絡先(事務局)

352-0011  
新座市野火止8-15-31  
並木事務所内

☎(〇四八)四七七一―五三三  
多くの方のご入会をお待ちしております。

嵐山初雁会の活動

会長 山岸 忠雄

嵐山初雁会(会員二十二名)の活動は、基本的に夏の総会、秋の行楽、そして年明けての新年会の三つです。

今期の総会は、昨年の七月十一日(土)夕方六時半から、嵐山町志賀にある「黒潮岬」にて開催しました。

この日は川越高校同窓会の田中正会長のご臨席を賜り、母校の現状と将来展望などを話していただき、予定された議事はスムーズに進行し、その後いつものごとく美酒を酌み交わしながらお互いの現状や今後のことなどを話し合い、時間の経つのを忘れるほどでした。

秋の行楽は、「万座プリンス温泉入浴と豪華バイキング・りんご狩り」と称して十月二十五日に五人で別のグループとの相乗りバスにて、群馬の万座温泉と長野の小諸でくつろぎました。

万座への道中は曇り空の下で山々の紅葉の変化を眺め、近づくころは寒い霧雨でしたが、ホテルではゆったりとした入浴、豪華なバイキングを楽しみました。

そのあと軽井沢経由で小諸に向かうのですが、晴れ間の軽井沢のすばらしい紅葉に車中ウワァー、ウワァーの感嘆の声でいっぱいでした。

小諸では昨年と同じりんご園でのりんご狩りとなりました。

新年会は二月十一日の予定です。  
連絡先(会長)

☎(〇四九三)六二六〇五七

所沢初雁会

会長 齋藤 博

本会は、母校創立百周年を機に、所沢市在住、在勤の同窓生を中心に四百名近い賛同者の下、平成十一年に誕生しました。

現在、「会員相互の親睦を図る」「母校の発展に寄与する」ことを大きな目標に活動しています。

毎年五月下旬開催の定期総会では様々な分野でご活躍の同窓生をお招きしての講演会、出席者全員揃っての記念撮影、さらに応援歌と「フレイ・フレイ川中、フレイ・フレイ川高」のエル交換に続いての校歌合唱が恒例となっております。

この他、通常の役員会に加え、拡大役員会と称した新年会、そして本会会報を通じて親睦を深めています。また、本校同窓会主催行事へ参加しながら各初雁会との交流を図っています。

なかでも、母校発展の一助となることを願って母校図書館内に創設した所沢初雁文庫、その充実を目指した毎年の寄贈も本会の大きな特徴です。

本会創立にご尽力いただいた川中卒業の方々との懇親の機会が年々少なくなっていく寂しさを感じていますが、諸先輩方の本会への熱い思いを受継ぎながら、会員の拡大や会報の充実をはじめ同窓の絆を一層深める諸活動に取組んでいきたいと考えています。

本会へのご参加を心から歓迎いたしますので、是非お知り合いの会員若しくは事務局までお問合せ下さるようお願いいたします。

連絡先(事務局)

所沢市北有楽町一ノ十一  
齋藤 清  
☎(〇四)二九二二九五六〇

狭山初雁会設立から今日まで

会長 高柳 清

狭山に住みついていたのが昭和四十九年、市民となって漸く落ち着いた頃、この町には初雁会のないことに気がつきました。平成十五年の春、隣の人間初雁会のI氏のすすめでこの会を立ち上げることを決心しました。

以来近隣の先輩支部のご指導の下、平成十六年六月設立総会を迎えることができました。(発足時会員数一六〇名)

当初の市内在住者は約一六〇名この内一〇〇余名の方にご案内を差上げました。初雁会の中では十八番目の設立でした。

平成十六年十月には母校訪問、川越市内散策の行事、十一月には武蔵豊岡コースで第一回ゴルフコンペと行事を実施致しました。

その後十九年十月には母校の委嘱を受けて全校の散策会の幹事会として市内智光山公園(参加一〇〇名余)での散策を主催致しました。以降定期総会は第六回まで経過、毎年六月の第二土曜日に市内東武サロンで開催しております。

秋(十月頃)には散策会とゴルフコンペを定例行事としております。又毎年四月一日付けで狭山初雁会会報を発行しております。

当初雁会も新しい会員を常に求めております。入会希望の方は左記の事務局まで御一報下さい。  
連絡先

狭山市中央一四八十六  
高柳公認会計士事務所内

☎(〇四)二九五八―四五二〇  
FAX(〇四)二九五八―八五四〇

「越生初雁会」誕生

事務局 新井 康之

念願の「越生初雁会」は昨年四月二十六日産声を上げた。十九番目の初雁会だそう。越生町には四百人を超える卒業生がおり、約百三十人が現在在住している。地域同窓会に賛同してくれたのは六十七名、多くは町在住者である。

「越生初雁会」の組織化に当たっては、発起人の方々の奔走があったりやく誕生した。

最古参は中学三十七期の新井正一郎さんで、一番若い会員は高校五十九期の原健将さんである。高校一期の石田雄介会長の下、高校五期の加藤博之、六期の酒本忠雄副会長が会を支えている。その他、母校前校長の吉澤優氏(高校十九期)や東北大学・宮崎照宣教授(高校十四期。平成二十年「朝日賞」受賞)など多士済々。また現役時代各界で活躍した錚々たるメンバーが会員に名を連ねている。

宮崎照宣教授は昨年十二月、母校の生徒千百人に前に講演した。高校時代、梅園村(現越生町)の山奥から二時間かけて通学した話を皮切りに、世界のノーベル賞学者の多くは名も無く貧しかったことなど、いつの時代でも人間は上を目指せと感動的な講演をされた。

越生は県西部に位置し、首都圏から五十キロの通勤圏にあるものの、緑とせせらぎの自然が豊かに残っている町だ。会則に謳ってあるように、会員相互の交流と、同窓としての絆を深め、母校と越生町の発展に寄与しようと、日々心掛けています。

連絡先(事務局)

☎(〇四九)二九二二三五七九

秋季散策会

「高麗郷」を歩く

日高初雁会

「快晴を予約して置きました」は前回の坂戸初雁会の話。今回もまたお天気相談所へ予約したような秋晴れの散策日和になりました。10月4日(日)、主催は川越高校同窓会、担当が日高初雁会で秋の散策と懇親会を実施しました。当日は朝8時から受付の準備、JR高麗川駅前の案内、散策誘導、救護車、懇親会場作り、写真、会計、総務等約30名の地元会員が各役に着きました。

10時の出発前に弓削多光一会長(高4回)、水村博美副会長(高8回)からご案内の挨拶があり、高麗川駅前通りから散策が始まりました。一行は田舎道に入り清流高麗川に架かる木造の橋を渡ります。音がするの通称ガタガタ橋、約30分で高麗山聖天院に到着です。

聖天院は奈良時代高麗郡の郡都当時の首長で「若光」の王廟と伝わる墓があり、古代朝鮮とのゆかりや交流を持つお寺です。前住職の横田辨明さん(高2回)から解説をお聞き



高麗神社前の散策一行

することが出来ました。境内からは高麗郷の眺めが良く、美味しい空気もいっぱい吸って満喫しました。

聖天院から歩いて10分、コスモスの咲く道を高麗神社へ向かいます。大鳥居の前で宮司の高麗文康さんが迎えてくださいました。高麗さんは若光王から代々男子直系で第60代に当ります。そこで高麗神社に伝わる歴史、また出世の神と言われる数々の参拝者の話などを丁寧にして下さいました。社務所前にある大きな階段は秋の陽がいつぱい。一行は記念写真を撮ります。百名の大集合に宮司さんも一緒にパチリ。写真係はすぐカメラ店へ直行です。

正午過ぎ一行は高麗川駅前の日本料理「あさひ」へ向かいます。快い疲れもあって懇親会のビールが楽しみです。会場は二間通しの大広間、百余名が一同に会しました。

犬竹郷美副会長(高6回)の司会で始まり、最初に日高市市長の大沢幸夫氏(高9回)から歓迎の挨拶、そして川越高校同窓会長の田中正氏(高6回)と同名誉会長で現校長の松下幸夫氏から御礼と有意義な散策会のお話をいただきました。

乾杯は参加者の中で最高齢の新井成年氏(中35回・鶴ヶ島市在住)にお願いして、歓談に入りました。会場では川高応援団OB2名(現大学生)が参加し、校歌、応援歌、懐かしいシユプレヒコールの発声、日高のメンバーからは犬竹一浩会員(高13回)が手品の名手でご披露、その好演に拍手喝さいでした。

会員同士で久しぶりに会った人、話してみると縁がながる人、懐かしく、和やかな懇談が続きます。最後に高麗神社前の記念写真が配られ、またの再会を期しての解散となりました。(事務局 大沢昭雄記)

秋の散策会のお誘い

日時

十月九日(土) 午前十時

集合場所

「森下駅」清澄通改札口

都営新宿線

都営大江戸線の駅

参加費

六千円(女性四千円)

懇親会

清澄庭園内「大正記念館」

午後一時より

江戸深川発祥の地を中心に散策します。この地はいまだ下町の雰囲気の色濃く伝えている所です。

まず、「河越千句」から同窓会事業「くすの木句会」へと連綿と続いている我が川越の俳句その俳句の原点というべき「松尾芭蕉」縁の地から「安藤広重」描きし万年橋を経て、下町の庶民文化の咲いた深川を展示した

「深川江戸資料館」を見学、そして、江戸の豪商「紀伊屋屋文左衛門」から明治の財閥「岩崎彌太郎」屋敷を経て、今日では名勝として親しまれている「清澄庭園」で懇親会です。

「行程」約3km程歩きます。

「森下駅」出発

「深川神明宮」深川という地の縁の神社、この近辺に伊東深川画家生誕の地あり。

「芭蕉記念館」松尾芭蕉の資料を展示。館内見学。

「芭蕉稲荷神社」芭蕉庵旧地とされている。

「万年橋」塩の道の運河。小名木川に架かる橋。

「清洲橋」ドイツのケルンの吊橋をモデルにした女性的な優美な橋を誇ります。

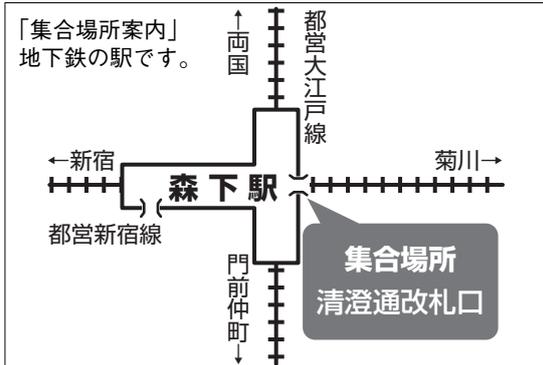
「靈巖寺」寛政の改革・松平定信の墓、江戸六地藏がある。

「深川江戸資料館」江戸時代の長屋など復元して庶民の生活を実物大で表現。館内見学。

「清澄庭園」近世庭園史上貴重な回遊式築山泉水庭園、奇岩珍石や涼亭を配した東京都の名勝第一号の庭園。

「大正記念館」大正天皇縁の建物。ここで懇親会。

(事務局 岡部恒雄記)



在京初雁会より

同窓会各分野の活動

(1) クラブOB会

音楽部OB会 松本 千尋

音楽部OB会は「会員相互の親睦を図り、音楽部との連絡、調整を行いその発展に寄与する」ことを目的として、昭和四五年に発足し、現在約一二〇〇名弱の方が会員となっております。活動としては、年に数回開かれる常任幹事会、現役音楽部の定期演奏会と同日に開催している定期総会を中心として、現役の音楽活動を温かく見守り、遠征費の補助などの財政的な支援を行っています。

今年「音楽部創立六〇周年」という節目の年であり、会員の皆様にはすでにご案内しています通り、OB会としての記念行事を企画しています。ぜひ会員の皆様のご協力をお願いいたします。

今年の「音楽部第六〇回定期演奏会」は七月二十五日(日)、川越市民会館にて開催されます。ひさびさの「現役・OB合同ステージ」も予定されています。数多くのOBの皆様のご参加をお願いいたします。その後、水川会館にて定期総会を兼ねた記念祝賀会を開催いたします。大勢の会員の皆様にご出席いただけましたら幸いです。

現在、会員数の増加とともに、残念ながら連絡先不明の方も増えてきております。OB会からの諸文書が届いていない方や連絡先に変更のあった方はぜひ、事務局までご連絡下さい。

連絡先(事務局) 松本千尋(音楽部副顧問・高37回)、音楽部三四回セカンドテノール)

美術部OB会 大護 皓夫

会員数八十三名の美術部OBは会長の高木茂夫(高6)、恩師の故大澤寛先生を中心として、四年ごとにこれまで展覧会を開催してきました。昨年七月二十日、二十一日に川越市立美術館にて出品者三十五名の展覧会を開催しました。しかし近年会員の固定化と年齢の高齢化等にもない昨年末の実行委員会に於いて今後の美術部OBのありかたが色々検討されました。そして左記の事項が検討承認されました。①名称を川越高校美術部OB展(紫縁展)を改め川越高校OB美術展とし、会員を美術部だけでなく美術に関心を持つOBまで対象を広げる。②木下重美事務局長(高11)以下の各委員は退任し昭和四〇年代中心の実行委員を選出する。③紫縁展は今後三年ごとに開催し、会期は七月とする。

④事務局を大護皓夫(高14)川越市南大塚一〇八六四におく。右記決定事項にともない今後は広く美術に関心を持つOBの参加を呼びかけ、新実行委員を中心に活動の輪を広げてゆきます。この会報をお読みの美術に関心のある方は事務局までご連絡ください。歓迎します。

最近の活動は埼玉県下の三つの美術館で昨年七月、九月に開催した長澤英俊展支援のため美術部OBが中心となりサポート会議をたちあげ記念講演会やバスツアー等を企画運営活動を展開しました。同展はその後大阪・神奈川・長崎で巡回展を開催しています。

\*ミラノ在住の現代美術家(高11) 連絡先(事務局) 大護皓夫(高11)

吹奏楽部OB会 青木 正己 一九六二年に松本成二先生の呼び掛けにより創設された吹奏楽部は、二〇一二年に五十周年を迎えます。あと二年です。その際は記念演奏会や記念誌の発行、記念曲の委嘱などを計画しており、ほちほちその準備を始めています。OB諸兄におかれましては、各期ごとに連絡を取り合い、部長を中心として名簿作成にご協力をお願いいたします。

OBの中では、11期の奥泉君が芥川賞作家、24期の田村君はコンクール課題曲の作曲家、同じく24期の米崎君はブザンソン指揮者コンクールのファイナリストなど、その活躍は世界に広がっています。一方、現役諸君は一二〇人を超える部員を擁し、年に二回のコンサートや八月のコンクールに青春しています。顧問は三人体制で、一桁世代には隔世の感があります。顧問に生え抜きのOBも何人か加わった時期もありました。現顧問におかれましては、新たな伝統を築きつつ、過去の栄光を復活させるべく、厳しくご指導をいただいております。ありがとうございます。

OB会も卒業したての若い世代が順次担って来ており、現役への物心両面に亘る援助とパイプ役に大きな存在となっております。なお、本年六月十三日には川越市市民会館において第四八回定期演奏会があり、終了後にはOB会総会も予定されていますので、諸兄のご参加をお願いいたします。

この会報を機に、なお一層部を盛り立てようではありませんか！ 連絡先(事務局) 大護皓夫(高11)

陸上競技部OB会 栗原 忠男 我が部は、オリンピック(鈴木聞多先輩)また全国高校駅伝に2回出場。インターハイなどの全国大会優勝者を数多く出した県下屈指の名門である。約1年の準備を経て平成18年1月29日、水川会館に200余名が集い設立総会を開催、OB会員の親睦と現役部活動の支援を目的とする「埼玉県立川越高等学校陸上競技部OB会」が正式発足した。会員数は800名を越える。

定期総会(2年に1回)、会員相互の親睦および現役部員との直接交流。総会には全国からOBが集まってくる。また、ホームページ(http://kro-fan.co.jp)と会報「あすりと川高」により緊密な情報交流をおこなっている。部活動については、活動支援金および春夏の合宿激励金などの金銭的支援、求めに応じて部旗、テント、のぼり、横断幕、ベンチなどを提供してきた。応援活動は盛んで、OB会オリジナルのTシャツやジャージ姿を殆どの競技会場で見ていただける筈だ。年間50日も応援に行った猛者もいる。

21年、4×100mRがインターハイ出場。たった40秒の応援に有志が奈良ツアーを敢行した。昨年できた保護者会と連動して積極的な応援活動を行っている。第3回定期総会が、7月24日川越水川会館で開催される。

連絡先(事務局) 広報担当栗原 入間市野田七二〇番地三三

野球部OB会 新井 茂 野球部は大正8年に創部、90年の歴史を有しています。昭和6年春の選抜大会、昭和34年の夏の全国大会で甲子園に出場、会員は川中時代の先輩から、この春卒業の若手を含め600人を超えるOB会です。平成元年には創部70年を記念して『川越高校野球部七十年史』を発刊致しました。大正年代の創部期から各年代の選手とコメント、戦績等を記載した、全国的にも稀で貴重な年史と自負しています。毎年5月には定期総会が開催され、年間の事業及び会計等の報告、承認を行っています。会の活動は会員からの年会費の協力による資金を基に、当会の目的の第一にある母校野球部への支援です。近年公立高校の甲子園出場は厳しい状況ですが、少しでも現役の戦績向上への思いです。会のもう一つの目的が会員相互の親睦です。現在、主な行事内容は「マスターズ甲子園」への出場、そして「親睦ゴルフコンペ」です。「マスターズ甲子園」は、元高校球児が再び甲子園を目指してという主旨の、全国的な大会です。我がOBも有志でチームを作り、県予選から頑張っています。「親睦ゴルフコンペ」は春と秋、年2回開催され、先輩、後輩一緒になって、親交を深めながらプレーを楽しんでいます。OB会では毎年、現役の各大会をネット裏から、大きな声援を送っています。

当会の連絡先(事務局) 木島宣之(高25回卒・OB会副会長)

連絡先(事務局) 大護皓夫(高11)

連絡先(事務局) 大護皓夫(高11)

連絡先(事務局) 大護皓夫(高11)

◎剣道部OB会 新井 敏彦

川越高校剣道部OB会は平成五年に発足し、現在に至っています。初代会長には、現在の埼玉県剣道連盟会長でいらっしゃる水野仁先生が就任され、その後伊田登喜三郎先生が引き継ぎ、現在は柴生田建司先生がその任にあたっていらっしゃいます。

平成十六年八月には『埼玉県立川越高等学校剣道部50周年記念誌』を発行し、記念祝賀会を挙行しました。約九十名のOB諸氏にご参加いただき、たいへん盛会のうちに終了しました。

主な活動としては、現役員と共に一月一回のOB稽古会、年一回の総会・懇親会(八月)です。物心両面から現役員を支援していただくという意図のもと活動しています。また、最近では浦和、熊谷、春日部、不動岡、松山各高校剣道部のOB会との合同稽古会を年一回行っており、各校のOB同士の旧交を温めています。

今後も現役生への支援とOB同士の交流を益々充実したものにすするため、努力していきたいと思っております。

剣道部OB会は現在四百余名の方が在籍していらっしゃいます。毎年八月に行われる総会のご案内を送る際に、OB会報も同封しております。そちらで現役生とOB会の活動報告をさせていただきます。

連絡先(事務局) 新井敏彦(高44回卒) 川越高校教諭・剣道部顧問

◎庭球部OB会 五十公野順一

川越中学開校以来の歴史と伝統を誇る「庭球部ソフトテニス」で存在しているわけはありません。実際には、現顧問が事務局となり、合宿の日程や、県外大会への出場報告などをOBに通知し、またHPに近況を掲載するというやり方で、現在の様子を伝えていきます(HPは「川越高校ソフトテニス部」で検索できます)。

OBの結びつきは強く、各代でそれぞれに連絡を取り合い集いの場を持っています。母校の百周年を期に、全てのOBに呼びかけ2度ほどOB会場の場をもちました。幹事役は、主にOBの高校教諭が担当しています。百周年後は5年に一度開催することを考えており、今年がその年にあたっています。まだ、具体的な計画はできておりませんが、連絡をお待ちいただきたいと思います。

上記のHPもOB同士の連絡の場として活用したいと考えています。しばらく母校庭球部から離れていた皆さんも、現役時代のエピソードなどとともに、現役員に対する激励の言葉などをお寄せいただければと思います。

庭球部OB会に関するお問い合わせは下記にお願いいたします。 松波 均(現顧問) 小林邦佳(高48・現顧問) 永塚 明(高25)

五十公野順一(高27) 加藤 隆(高29) (〇七〇)六五六一〇一四六

◎山岳部OB会

部史九〇年記念誌発刊と恒例春、秋OB会山行活動の報告 幹事 長島 威

我が山岳部は川中時代一九一九年大正八年に創部されました。その歴史をふりかえり昨春川越高校山岳部創部九〇周年記念誌『青春の彷徨』を上梓しました。発刊にあたり、OB会編としてOB会有志の方々にお骨折り頂きました。現在市内の謙受堂と太陽堂にて配布しています。ISDNをそなえた市販本です。

OB会が組織されたのは一九八八年です。以来三〇〇名からの卒部名簿をもとに七〇名の会員で共通語の「山」を語り合う親睦の会です。会は毎年二月一日(祭日)二時よりの新年会から始まります。山行は年二回の春山と秋山の日帰り山行を公式行事としています。

昨年の春は九〇年誌の思い出の川中第一回登山富士山を記念して富士に登れないまでも山麓のトレーニングを企画しました。五月三日(日)静岡側の富士新五合目と愛鷹山群越前岳です。アシタカツツジが見事な山でした。

秋の山行は群馬の名峰日本百名山の荒船山です。著名な作家の転落事故もあり追悼の山でもありました。十一月四日(土)当日は雨天となりましたが「晴雨にかかわらず実行」を建前とした山岳部OB会です。傘をさしながらも楽しいトレッキングでした。

ホームページ 川越高校山岳部OB会 HP http://www.5c.biglobe.ne.jp/~kaw33-obj/ 代表幹事 岩堀宏明

(2) 同期会

中四七・高一回 渋谷 健

私達の在学中に、二つの歴史の転換点があった。川越中学・高校生生活の前半は戦時中で、空襲や三か所に分かれての勤労動員といった体験を積み、後半は終戦直後の教科書もままならない混乱期、つまり軍国少年から民主主義青年に変化する時代に遭遇したのだ。又、昭和二三年の学制改革で、旧制中五年で卒業(川中四七回)と、新制高で卒業(川高一回)に分かれるという、他の学年には体験できない貴重な思い出がある。その当時を思い出して、一九九二年小山誠三氏・原田秀四郎氏等を中心に『遠い飛行機雲』なる記念誌を刊行した。その中には「学徒出陣に『海行かば』のタクトを振った音楽教師が、悪夢に魘され、戦後校庭の焼却炉でこっそりタクトを焼き、戦死した教え子の顔を思い浮かべた」との記事があったと、平成一七年七月一八日付全国紙の「墓碑銘」という項目の中で取り上げられた。生徒数も入学時の四組が、多くの疎開者を受け入れ五組に増えていた。この混乱期にも関わらず著名なジャーナリスト松山幸雄氏(朝日新聞論説主幹)、ベ平連事務局長だった吉川勇一氏、薬学会の泰斗・遠藤浩良氏(帝京大薬学部部長)をはじめ錚々たるメンバーが多数出て、川高ここに在りと示してくれた。恩師も殆んど鬼籍に入られたが、傘寿を迎える今でも、年に一度の同期会で顔を合わせ、往時の様々な苦楽を偲び、母校の未来への期待を語り合い、再会を期すのが誇りでもあり楽しみでもある。

◎高三回

喜寿。なお盛ん 青柳 安彦 昭和二〇年、私たちが川中に入

学した頃はまだ、戦争中でした。通学途上では空襲に遭い、学校では農作業と防空壕掘りと軍事教練。卒業すれば戦場にしか行き場はない上級生の、置き土産のつもりのお説教とビンタ。文科系の先生までが鉄拳を振る毎日でもとてもじゃないが楽しい学校生活と言えるものではありませんでした。食べるものもなく、それでも戦時中だから当然のことだと受け止めて、みんな必死で頑張りました。

入学時には二〇二人、疎開、親の転勤、帰京と出入りの激しい時代でしたが卒業時には二一七人が卒業し、現在一八〇人の名簿が整い、年二回夫々一六ページ前後の会報がその会員に配られています。昨年の秋の同窓会にはこのうち七〇人が出席し、六〇年前のことを昨日のこのように語り合いました。この健康も、もしかしらたら戦争中の粗食のおかげかもしれません。

私たちは途中転出者も仲間に入れていますが、六年間同じ校舎で共に遊び、共に学んだ絆は固く、その絆は平成六年の還暦記念『おいしい、楠の木よ』と言う、七〇〇ページを超える文章として結実し、さらに分科会として、郷土研究、囲碁・将棋、俳句、旅行、野球応援などを継続。会報の記事のネタには事欠きません。ただ惜しいのは一五〇回続いたゴルフの会がリーダーY君の逝去もあり会としての活動を終結したことでした。

私たちは昨年喜寿の坂を越えましたが、気持ちには益々元気です。

高五回 「喜寿文集」に挑戦

記念誌編集人 加藤 博之

われわれ五回生は過去に記念誌を二回刊行している。『それぞれの旅』還暦記念誌(発行人・染谷II故人)と古稀記念誌「統それぞれの旅」(発行人・関口一郎)だ。昭和二八年卒業生は三一八人、還暦文集に寄稿したのは一一三人、古稀文集では僅か八五人だった。三冊目は傘寿の予定だったが、前倒して喜寿に出すことになった。来年、刊行予定だ。

同期には優秀な人間が多く、叙勲者は二名(歯科医師の石井一、元埼玉県副知事の関口一郎)。「NHK文化センターの美術大賞」受賞(尾崎莊治)、同じNHK教育テレビの俳句番組で特選一席(平不二夫)など皆、古稀を迎えての授賞だ。さらにゴルフでエイジシユート記録した猛者(昨年II関口孝夫)もいる。何人が原稿を書いてくれるか不安だが、還暦、古稀と寄せなかった同級生が「今度は書くよ」と力づけてくれた。戊戌年、亥年生まれのため「川高戌亥会」(比留間孝夫会長)と名づけたゴルフ会がある。当初四五人の登録だったが、今は三四人、年四回のコンペを続けている。七五歳、七六歳で元気でゴルフが出来るのは自己管理がしっかりしているからだ。ゴルフのスコアIや順位は半年で消えるが、自分史は孫・子の代まで残る。自分が生きてきた証(あかし)でもある。すでに鬼籍に入った同期も数多く(古稀時点で五三名、それ以降五指に余る)寄稿してくれる人数はつかめないが、たとえ三〇人も上梓する決意である。

飯能初雁ゲートル会

会長 佐野陽太郎

\*会の名称:先の大戦下で学んだ者にとつてゲートルという言葉には忘れ難い響きを感じている。当時我々川中生もこれを脚に巻いて通学したことから会名とした。特にゲートルを巻いて稲荷山公園駅―入間川駅(現狭山市駅)間の二軒を歩いている通学は印象深い。(「ゲートル」とは中五糶、長さ二米程の布で踝から膝下までを巻き上げるもの。旧陸軍が使用。)\*発足:昭和五年、中四回の関谷昭・町田成夫両氏の主導で昭和一六年(第二次開戦年)入学から同二〇年(終戦年)入学の飯能に縁のある同窓生で発足したが、途中昭和一五年・同二一年(最後の川中生)入学組も加わり現在四八名の会員を擁する。

\*会の活動(例会):戦中派にとつて八月一日や二月八日と言った忘れ得ない日や在飯能の恩師の叙勲・出版記念、会員の市長就任祝い等随時懇親会を重ねてきたが、近年は年一回二月第一日曜日は毎回会員の過半数が集まり、戦時中や終戦後の混乱異常な社会の実相を見て来ただけに価値観を共有するところ多く、会えば肝胆相照し談論風発、また母校の思い出を巡る話題も尽きない。\*出版:平成一二年に川中・川高時代の体験、随想を綴った『遙かなる日々』初雁健児ゲートル時代の回想(会員五一名寄稿、三〇〇頁)を出版し会員の貴重な思い出を「記録」として残した。

第九回「川高くすの木俳句大会」のご案内

柴崎 育久

母校創立百周年を機に上げた本大会も今年で九回目の運びとなり、末記のとおり開催いたしますので、多数の方々のご参加をお待ちして居ります。又ご投句の際にはご卒業年次をお書き下さい。ご家族の方のご投句も大歓迎ですが、本校との関係を保つて下さい。本大会には学校当局の呼びかけにより、在校生の四百名を越える応募もあり、優秀作品には賞品を差し上げて居ります。

なお、月例の「くすの木句会」は毎月第一土曜日午後一時より母校の同窓会小会議室で開催して居り、松本旭(俳誌『橋』主宰)・小澤克己(俳誌『遠嶺』主宰)両同窓生の選と指導もあり、初心者も大歓迎です。また恒例の俳句大会当日には、両先生と俳句専門誌「俳壇」社長の本阿弥社長(高一九回)から賞品の寄贈があります。さてご存知のように、母校は太田氏の川越城跡に建ち、文武にゆかりの地であります。太田道灌の父道眞が、今に残る「河越千句」を張行した地であります。扇谷上杉氏の家宰太田道眞が文明二年(一四七〇年)正月十日から十二日までの三日間に百韻連歌を十回行い、その記録が幸い現存しています。時は応仁の乱の頃、京を脱した連歌師宗祇や心敬僧都を招き城内に籠り千句を巻いた城主太田道眞は「若年より文道に心よせ、政道を助け、武備を以つて乱を治めける」と古書にもあり、「連歌をとおして世直ししよう」という宗祇と共感するところがあつたものと思われま

す。

連歌は俳句の祖。そして今や俳句は「HAIKU」として世界の人々がそれぞれの母国語で詠んでいる。遅蒔きながら母校創立百周年記念事業として、あの大楠の根元に「川越千句張行顕彰碑」を建立出来たらと夢みてゐる次第。●ご案内 日時 二〇一〇年八月二十九日(日) 午後一時より五時

会場 川高図書館「セミナー室」 投句 夏、秋季雑詠三句 (郵便葉書に楷書で記述) 投句先 〒三五〇一〇四四 川越市南通町一五一六 佐々木 新 投句切 八月八日(日)消印有効 会費 投句三句に付金千円也 (郵便小為替を投句先へ)

●第八回同俳句大会作品集より 卒業生の部 松本 旭(中三五) 隱岐の旅終へたる夜の髪洗ふ 片陰を捜して歩く蔵の町 村田のぼる(中四一) この暴挙許せよ蜘蛛の巣を払ふ 奥山 昌美(中四七) 今朝上げて鰻の釜の生乾き 桑田 忠男(高一) あぢさゐの大まり小まり姉妹 佐々木 新(中四八) 黒揚羽借景ひつくり返しけり 柴崎甲武信(中四八) 雲の峰浅間の嶺と左四つ 相田 旬(高三)

夏草に残る江戸の香一里塚 五十嵐 甫(高三) 椋鳥の群れて夕日に立ち向う 松村 祐二(高三) つまづきし闇の走り根風死せり 宮崎 敏昭(高三) 稚なる掌に余りけり掘りし芋

桃井 良之(高三) 向日葵や小江戸に残る釣瓶井戸 深見 雨牛(定高三) 草刈りしあと新平家物語 落合 好雄(高五) ゆらゆらと海月が揺らす地球かな 沢田 洋々(高六) 常円寺至道を染める大団扇 中村夢扉夫(高一) 汗染みの背や曼陀羅の幾何模様 横山 正樹(高一三) 通りやんせつばやきをれば明易し 岡部つねを(高一五) 羅やこころはいつもシースルー 小林 幸二(高一七) 夏野より少年の顔持ち帰る 小澤 克己(高二〇) 壬生寺の蟬に託せる志士の声 栗原忠梨風(高二〇)

在校生の部 (天賞) 向日葵の向いてる方に希望あり 松浦 隆順(二年H組) (地賞) 日を浴びる俺の体は滝となり 今井 太朗(二年D組) 雁一羽翔ける天上限りなく 贊田 隼人(二年E組) 陽炎のゆらめく道を登校す 谷口 巧海(二年F組) 七分袖見え隠れする日焼け跡 石橋 征哉(二年H組) 夏の浜二人の足跡平行線 鈴木 雄太(二年H組) (人賞) ひぐらしが秩父の山に日を落とし 高田 誠(二年A組) 透明に景色を写す心太 新井 悠史(二年C組) ゆつくりとだが確実に蝸牛 小松 隼基(二年C組) きれいだね花火じゃないよ君がだよ 吉田 大作(二年D組)

# 母校だより (二)

## 創立百十周年記念講演会

校内幹事 山崎 邦俊

平成二十一年十二月十八日金曜  
日午後より、川越市市民会館に於  
いて、生徒・教職員、同窓会や後  
援会の参加のもと、盛大に記念講  
演会が行われた。講師は、高十四  
回(昭和三十七年三月)卒で、東  
北大学原子分子材料科学高等研究  
機構教授の宮崎照宣氏にお願いを  
した。

講演に先立ち、松下校長より百  
十周年事業としてこの講演会があ  
ることや、図書館から体育館への  
二階通路に川越高校の歩みコーナ  
ー(仮称)を設置したこと、自転  
車置き場の増設、百周年以降の本  
校に関する資料整備の事業を行っ  
ていることが紹介された。

宮崎氏の講演は、「教育と研究  
四十年」の演題のもと、越生の梅  
園中学校と川越高校時代、東北大  
学の概要、トンネル磁気抵抗効果  
(TMR)とスピントロニクス、  
川越高校生に向けて、の四  
つのテーマで講演をされた。

講演では、生まれた場所を地図  
で紹介しながら、本校への通学は  
二時間以上かかったこと、また、  
前吉澤校長は更に駅から遠く通学  
はもっと大変だったろうと話があ  
った。高校時代のことは、卒業ア  
ルバムを使いながら在学当時の話  
があった。一年時に野球部が甲子  
園に出場したこと、名物教師とし  
て国語のトクさん・化学のロクさ  
ん等の先生方の話、当時は全員が  
学帽を被っていたこと等の話があ  
った。次に東北大学の概要の話が

あり、AO入試の紹介、研究者に  
なるためには大学から院を経て十  
年以上かかる話等があった。

自らの研究については、トンネ  
ル効果についての説明後、その研  
究による業績の紹介があった。次  
に電子スピンの働きにより強磁性  
体ができ、磁界の働きにより電気  
抵抗が変化する磁気抵抗効果のこ  
と、そのことをもとにコンピユー  
タ内に用いられるハードディスク  
が構成されていることの話があっ  
た。さらに、巨大磁気抵抗効果G  
MRを発明し開発した人物が二〇  
〇七年にノーベル賞を受賞したこ  
と、ご自身が発見、研究をされて  
いるTMR素子により、コンピユー  
ータ内に使われている中央処理演  
算装置(CPU)やメモリ(RAM)  
が、電気から磁気に置き換え  
が可能であり、超低消費電力のノ  
ーマリオフのコンピュータが可能  
で二酸化炭素排出削減にも効果が  
あること等の説明があった。

生徒達には、研究者の本多光太  
郎氏の話に、志に年齢は関係  
なくその思いが必要で、今が大切  
であることや、歴史上に名を残す  
ような人物の幼少期は決して優秀  
ではなかったこと、頭の柔らかいか  
若い時代をどう過ごしたらよいか  
他人の良い所は真似てとことん努  
力をして欲しいこと等を熱く語っ  
てくださった。

講演の後にも生徒からの質問を  
受け、丁寧に回答していただいた。  
最後に、生徒からの校歌斉唱、花  
東贈呈があり講演会が終了した。

### 宮崎 照宣氏の紹介



講演後、花束を受け  
取って

#### 略歴

昭和十八年に越生町大字小杉で  
生まれ、地元の梅園小学校、(旧)  
梅園中学校を卒業後、川越高校  
を経て東北大学に進学。昭和四  
十七年に東北大学大学院工学研  
究科博士課程を修了し、同大学  
助手、ドイツレーゲンスブルグ  
大学助手を経て、平成三年に東  
北大学の教授に就任。現在、東  
北大学原子分子材料科学高等研  
究機構の教授として活躍中

#### 学術関係 実績・受賞

- 文部科学省  
メモリデバイス研究開発事業  
プロジェクトリーダー  
(二〇〇二～二〇〇三)
  - 文部科学大臣表彰科学技術賞  
(二〇〇六)
  - 応用物理学会フェロー  
(二〇〇七)
  - 山崎貞一賞選考委員会委員等  
(二〇〇七)
  - 朝日賞  
(二〇〇八)
  - 米國物理学会  
バックレイ固体物理学賞※  
(二〇〇九)
- ※元ベル研究所所長オリバー・バック  
レイ(海中ケーブルをつくった)  
を記念して一九五二年に設立された  
半導体のシヨックレイ(一九五三)  
バーディーン(一九五四)やトンネル  
効果のジエバー(一九七三)ら多数の  
ノーベル賞受賞者が本賞を得ている。

### 講演中にでた語録

生徒達に話していらつしやいま  
したが、私達の生活にも役立ちそ  
うです。

#### 若い時代をどう過ごしたらよいか

- よく考える、簡単に納得しない
- 人と逆に考える、強い個性
- 粘り強い(持久力) 瞬発力
- ある期間続ける
- 上には上がいる
- 人の良い点をまねる
- とことん努力する
- 先を観る(読む) 全体を観る
- 健康、貧困に耐える

#### 基礎の効用

- ライフの長い知識
- 応用範囲が広い
- 情報吸収力が大きい
- 頭が整理されている
- 独創性を高める
- 境界領域に入りやすい
- 判断を大きく誤らない

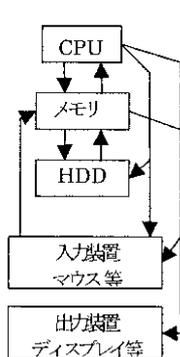
#### 有名な科学者の幼少期のあだ名

- ガリレオ・ガリレイ
- ケンカ屋、噛みつき野郎
- ケプラー
- 居酒屋の娘の子、給費生
- ニュートン
- 普通の成績、給費生、独身
- ファラデー
- 製本屋の発送係

### コンピュータの構成

CPU(ヒトの脳にあたる)

で、いろいろな情報を処理、出入  
力することができる。しかし、情  
報を記憶することが苦手で、キャ  
ッシュ(Cache)という場所にほ  
んの僅かしか記憶することができ  
ない。そこで、処理する情報や処  
理の手順を記憶する必要がある。  
その場所がメモリになる。電源を  
入れるとコンピュータは、磁気で  
記憶されたHDDのデータを比較  
的処理の速いメモリに書き込む。  
そこより、CPUは必要なデータ  
を読み込んだり、必要なデータを  
書き込んで記憶させたりする。メ  
モリはコンデンサを利用しており、  
蓄えた電荷が時間とともに漏れて  
なくなるので充電(リフレッシュ)  
が必要になり、この電力が無駄に  
なっている。メモリも磁気を利用し  
た構成にするための技術が、TMR  
(Tunneling Magnetoresistive)だ。

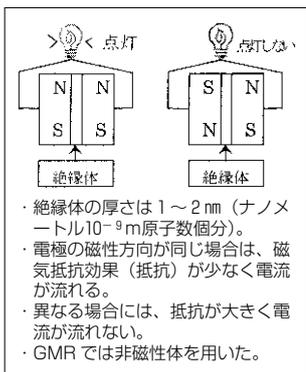


#### TMRとは

磁気により電流の有る無しを制  
御する、新しい技術。

### コンピュータとTMRの 5つの豆知識

- コンピュータ用語
- CPU(Central Processing Unit)  
中央演算装置(演算・制御)
- メモリ(Memory) 記憶をする
- ハードディスク(ドライブ)HDD  
磁気により大量の記憶をする



- 絶縁体の厚さは1~2nm(ナノメートル10<sup>-9</sup>m原子数個分)。
- 電極の磁性方向が同じ場合は、磁気抵抗効果(抵抗)が少なく電流が流れる。
- 異なる場合には、抵抗が大きく電流が流れない。
- GMRでは非磁性体を用いた。

# 母校だより (三)

## 出る杭をさらに伸ばす

### 川越高校スーパースサイエンス ハイスクール4年目の成果

SSH推進委員会 阿部 宏

本校は、平成18年(2006年)に、文部科学省の科学振興事業スーパースサイエンスハイスクール(SSSH)の研究指定を受け、今年度5年目になります。

### ■平成21年の成果の概要

●平成21年3月卒業生の進路実績 (SSH指定1年目の生徒)  
東京大学理系合格者9名中7名がSSH事業で研究活動を活発に行った生徒。SSHに取り組んだ生徒の現役合格率8割。学年全体の合格率6割弱。  
●世界大会で銀メダル受賞 平成21年9月に台湾で行われた第3回国際地学オリンピックで富永紘平君が見事銀賞を獲得しました。



オリンピック銀メダル

●日本学生科学賞全国大会出場  
SSHの授業をきっかけにはじめた「ペットボトルロケットの内圧と高度の関係」が十倍の倍率を突

破し全国大会に出場しました。この研究は8月パシフィコ横浜で行われた全国SSH高校生研究発表会でも百校中、上位一割に入り、ポスター賞を受賞しました。

●5名が全国大会 6月に行われた物理コンテスト地区予選で、8倍の倍率を突破し、8月の大会に出場しました。

●44%の生徒が、SSHが本校志望の理由の一つと回答 平成21年度入学生366名中157名。

●8割の生徒がSSH事業で科学への興味が高まったと回答 平成21年度入学生研究グループアンケート

●研究規模拡大 SSH研究に参加する1年生の人数が147名と平成20年より更に増えました。日本学生科学賞、JSEC等への研究数も17作品と参加校最多でした。

●千名が「冬休み科学教室」参加 12月26日川越市内の小中学生約800名、保護者200名、来賓15名が川越女子高校に来校し、川高生110名、川女生110名、川南生20名の合計220名が先生役をつとめ、科学の楽しさを様々な実験で伝えました。

### ■SSH事業の目的

「将来の国際的な科学技術系人材の育成」および「高大接続」、「理数系教育の改善」が目的です。本校指定期間は5年間(平成18年度(22年度)で、その間に高校レベルの研究指定としては破格の年間一千万円レベルの研究資金の支援と人的支援を受けます。平成21年度は、全国で106校が指定を受けています。意欲のある生徒の能力を伸ばす。出る杭を更に出す、がSSHのモットーです。

本校SSHのテーマは「知の融合」です。趣旨は、人文・社会・自然科学、すべてに渡る広い視野を持って、分野横断的・融合的な新しい学問を創造しうる人材を育てるといふものです。

本校SSHのもう一つの特徴は、全生徒に科学リテラシー教育を行うということ。現在の社会は科学や科学技術が無縁のものとして生きて行くことは不可能です。

今、科学の最先端ではどのような研究が行われ、それが科学技術としてどう社会で使われていくべきか。それを全員に教養として身につけて欲しいというのが本校SSHの目的の一つです。

これらの目的を達成するための課題は3つです。  
課題1「科学リテラシーと問題解決能力を育てる」  
これからの科学技術社会に必要なとされる科学観、国際性、社会性、倫理観の育成。表現能力・コミュニケーション能力・問題解決能力の育成(全生徒対象)

課題2「研究能力・発表能力育成」  
従来の科学の枠を超えた取り組み(希望生徒対象)  
●様々な学問分野を融合した科学教育の実践  
●最先端科学テーマ研究  
A・・・地球環境とエネルギー  
B・・・生命と物質  
C・・・物質とテクノロジー・情報

課題3「地域と科学でつながる」  
中高大の学校と地域が一体となって科学技術系人材を育成していくネットワークの構築  
「科学でつながる」という観点で、大学・企業等の研究機関、および地域の小・中学校や公民館、高校との連携を図ります。

●「科学でつながる」という観点で、大学・企業等の研究機関、および地域の小・中学校や公民館、高校との連携を図ります。

### ■平成21年度の取り組みについて

(1)授業「SSH基礎I」  
科学リテラシー育成を目標に1年生全員を対象に週1回行う授業です。

1学期 第一線の研究者による学年講演会と全校講演会を1学期を中心に実施しました。以下に講演テーマと講師を記します。

「考える科学」先端科学技術」 4月  
日本科学未来館 長田純佳先生  
核融合科学研究所 井上徳之先生

「すばる望遠鏡で見る宇宙史」 5月  
国立天文台教授、東京大学教授 家正則先生

「認知能力を守る」人類の新しい生命時間について」  
理化学研究所 脳科学総合研究センター 西道隆臣先生

「科学と非科学の間 (はざま)」 10月  
立命館大学教授 安斎育郎先生

2学期 希望により、科学研究に興味を持つグループ(研究グループ)と、科学を教養として学ぶグループ(教養グループ)に分かれ活動しました。研究グループ選択者は147名と3年間で最多です。

研究グループは、さらにABCのテーマ毎に次の5グループに分かれ、SSH基礎IIを受講している2年生と一緒に、外部研究者の講義、本校教員の講義・実験、テーマ研究をおこないました。

A分野「土壌」  
B1分野「生物と環境」植物生理とバイオテクノロジー」  
B2分野「有機金属が導く創薬化

学」  
C1分野「基本情報技術者試験 検定合格をめざす」  
C2分野「センサーと計測・コンピュータ・データ処理と誤差」  
重力センサー搭載ロケット、素粒子検出器、マイコンによるデータ計測」  
SSHの授業に連動して1、2学期に外部研究者の講義、フィールドワーク、研究施設実習・見学を実施しました。

A分野 「土壌動物と環境」 5、7月  
「生物指標を用いた環境調査」  
東京学芸大講師 福田直先生  
「浅間山野外実習」  
群馬大学教授 早川由起夫先生

B分野 「自然に学び自然を超す」 2月  
早稲田大学教授 竜田那明先生

C分野 「ミクロナ世界からマクロナ世界へ」素粒子物理と宇宙物理」6月  
東京大学大学院教授 須藤靖先生  
「筑波 高エネルギー加速器研究機構見学・実習」東京大学素粒子物理国際研究センター 山下研究室  
「素粒子講義」 7月  
「手作り検出器で素粒子をとらえる」豆カミオカンデ製作」11月  
東京大学素粒子物理 国際研究センター 山下研究室

「宇宙空間の物理」宇宙プラズマの研究」 1月  
JAXA 研究者 笠原慧先生(本校OB)

教養グループは、1学期の講演や、推薦図書、関連WEBから科学や科学技術に関わるテーマを選び研究しました。

3学期 研究グループは班別に研究と発

研究グループは班別に研究と発

表をおこないました。  
一般教養グループはテーマ研究をまとめてレポートを作成しました。

(2) 授業「SSH基礎II」

2年生を対象に週1回行う授業です。左のテーマで、32名が学び、研究しました。

1学期

A分野「川越のヒートアイランドを探るパート2」

B1分野「生物と環境、植物生理とバイオテクノロジー」

B2分野「有機金属が導く創薬化学」

C1分野「基本情報技術者試験 検定合格をめざす」

C2分野「素粒子論と相対論、宇宙論」

(3) 授業「SSH探究」

3年生が選択します。この授業の目的は、これまでの研究の総括及びSSHの授業等を通して育んだ、将来の希望を実現できる大学に進むための準備をおこなうというものです。1学期は過去2年間の研究を卒論としてまとめる活動と、物理、化学に分かれての大学入試問題演習、2学期は大学入試問題演習中心の授業になります。

(4) 「SSH特別講座」

土曜日、長期休業中に行う講座を特別講座と呼んでいます。

実施内容は①最先端科学研究施設見学や研究者による講義・実験。

②科学館でのプレゼンテーション実習。③英語による科学英語講座や、英語プレゼンテーション実習

などです。全学年の希望者を対象に、文系・理系を問わず実施します。

「日本科学未来館調べ学習・プレゼンテーション実習」 6月

「ALIT科学英語 Green Effect」

「ALIT科学英語 Global warming」 5月、6月

「プレゼンテーションセミナー」 4月、7月

「プレゼンテーションセミナー」 10月、11月

「電子顕微鏡特別講座」 5月

「浅間山フィールドワーク」 7月

「電子顕微鏡特別講座」 5月

「浅間山フィールドワーク」 7月

「ハワイ島実習」

「ハワイ島実習」

「浅間山フィールドワーク」 7月

「電子顕微鏡特別講座」 5月

実習本番

溶岩が砕けてできた黒い砂の黒砂海岸での実習からはじまり、見渡す限り続くキラウエア火山の溶岩原でのフィールドワーク、溶岩トンネルやキラウエア火口での火山学者シヤロル・ガンセキ先生の現地講義と英語による1時間のデイスカッション(全員必修)、カナパナでの海にそそぐ溶岩流の遠望と天体観測、国立天文台マウナケア山麓施設での川高OBによる望遠鏡見学、中腹のハレポハクでの降るような星空のもとでの天体観測、植物学者ティム・タニソン先生による植物・環境フィールドワークなど、現地でしたかできない貴重な体験を豊富に経験しました。

事後学習

研究に取り組み、くすのき祭(9月)、科学振興展覧会(10、11月)、高校生によるサイエンスフェア(11月)冬休み科学教室(12月)、理科教育研究発表会(2月)、本校研究発表会(2月)、ハワイ島巡検3校研究発表会など、多くの場で研究内容を発表し、学んだ成果を還元しました。

(6) 地域の小中学校、高校と連携した科学事業

同じ年にSSHの指定を受けた川越女子高校やSPP指定を受けている川越南高校と共同で地域の科学振興事業を行いました。積極的に地域と交流することで、生徒自身の成長と科学好きな小中学生が実験に触れる機会を増やすというのが目的です。

平成21年度は川越女子高校を会場として、川高・川女・川南生240名が先生役を務め、川越市内小

学生(4、6年生)と中学生の計約800名に科学実験の楽しさを伝えました。20の教室を会場に全部で48ブースで科学実験、工作を実施しました。また東工大OBで作る科学実験教室「くらりか」メンバーの方々の視察・交流があり、この事業が地域の事業として定着しつつあることを実感しました。多くの小中学生から「川高、川女、川南生の説明は分かりやすかった」と評判の成功の事業でした。

(7) 科学展等研究発表

SSHのさまざまな事業で、全学年合計約200名の生徒が研究に取り組み、科学展等で研究成果を発表し評価されました。JSEC(ジャパン・サイエンス&エンジニアリング・チャレンジ) 10月初旬 7作品出品。科学教育振興展覧会 西部地区展 10月初旬 10作品出品。中央展(県大会)に進んだ5作品中1作品「ペットボトルロケットの内圧と高度の関係」が日本学生科学賞全国大会に出場しました。理科教育研究発表会 2月中旬 14作品参加

川高生徒研究発表会・事業報告会

34作品 2月27日

(8) 科学コンテスト参加

全国物理コンテスト「物理チャレンジ」では20名が地区予選に参加し、3年生の石原宏樹君、秋本晴馬君、富永紘平君、西山大貴君、吉田翔君の5名が8倍の倍率を突破。4名が8月初旬に筑波で行われた全国大会に出場しました。

国際地学オリンピック国内選抜全国大会に2名が参加し、3年の

富永紘平君が最優秀賞を受賞しオリンピック日本代表に選抜、2年生の高村悠介君が優秀賞を受賞しました。

第三回国際地学オリンピック台湾大会は9月に行われ、富永君が見事銀メダルを受賞しました。

(9) 平成21年度総括と平成22年度の取り組み

指定4年目の平成21年度も、科学コンテスト、地域の科学振興、科学展などで多くの成果がありました。SSH事業の目標である「意欲のある生徒の能力を伸ばす」という趣旨の通り、全学年の生徒達がSSH事業で志を高く持ち、粘り強く着実に力をつけ、結果を出してくれたと思います。

この結果は、もとより本人の努力の賜ですが、SSH事業により、意欲のある生徒達がまとまり、高校の勉強の枠を超え、やりたいことを徹底的にできる場ができたということが、成果がでた理由としてあげられると思います。

平成22年度は5年指定の最終年度です。課題は指定終了後の事業の継続です。ぜひご助言・ご意見をいただければと思います。

本校SSH事業の運営において、OBの皆様によるご講演、ご講義という形でのご支援、および同窓会による事業を円滑に進めるための予算的なご支援をいただき、事業は順調に発展しております。同窓会の皆様にも深く御礼申し上げます。今後とも川越高校の発展のために職員一同頑張っていく所存ですので、ご支援のほど、よろしくお願いたします。

2010年度 大学等入試合格状況一覽

母校だより (四)

Table with columns for university type (National, Private, Public), university name, and admission statistics (Qualified, Admitted, etc.).

※3月25日現在までに判明した状況で、確定したものではありません。

部活動の主な戦績

- List of sports achievements including: 陸上競技部 (Track & Field), 水泳部 (Swimming), 弓道部 (Archery), 音楽部 (Music), 将棋部 (Shogi), 古典ギター部 (Classical Guitar), 物理部 (Physics), 新聞部 (Newspaper).

# 川越中学校初代校長 増野悦興の謎 (八)

滝澤 民夫

増野悦興の墓を  
 探して七七年が経過したが、昨夏遺族から段ボール一箱の新たな関係文書を寄託いただいた。川越高校と同窓会、近代思想史研究にとつて貴重な資料である。目録化と解説には時間を要するが、二つの文書を紹介したい。

これまで増野の半生は、一八六五(慶応元)年九月二〇日、津和野藩士増野貞吉長男として出生。津和野小学校―山口で漢学―東京一致神学校―同志社英学校編入―徴兵令がらみで退校―再入学―連袂退学―伝道活動―日向教会設立―浪花教会伝道、岸和田教会応援―『基督教青年』編輯一九〇(明治二三)年八月、二四歳で渡米、

新島襄の母校ボストンのアンドヴァー神学校で修学・メイン州のバングア神学校で修学―九三年秋帰国―霊南坂教会・安中教会牧師―岐阜県尋常中学校嘱託教員―石川県尋常中学校教諭心得―一九九年四月、埼玉県第三中学校初代校長―一九〇二年二月、「校務ノ都合ニ依リ」休職、半年後に退職―とされてきた。

履歴に関して今回明らかになったのは、八四年二月―八月まで、一八歳の時に函館県下の大野小学校七等訓導として勤務していたと考えられること、九八年一月に石川県尋常中学校の商議委員・英語科主任・第三学年担任、四月に第五学年担任になっていること、同年一〇月―九九年二月まで東京府教育会附属小学校英語教員伝習所

講師を勤めたこと、の三点である。

今後調査したいがこのうち、石川県尋常中学校に関しては、昨年九月に石川県立泉丘高校を訪ね、同窓会事務局長の中山一郎氏のご好意により、書庫で一八九八年四月二四日の新入生記念写真のなか増野の姿を見つけることができた。設立当初からの膨大な資料が目録化・ファイリングされており、川越中学・高校資料の整理と保管体制づくりは喫緊の課題だと感じた。

石川県尋常中学校を依願退職直後、東京府教育会附属小学校英語教員伝習所講師に就任したことが、新設される埼玉県第三中学校長就任と関係があるかもしれない。当時、東京府教育会長は東京府知事の子爵岡部長職だった。岡部長職は最後の岸和田藩主で、在米留学中に新島襄にあてて藩士のキリスト教入信を依頼したこと知られる。岸和田藩家老で入信した山岡尹方の長男で牧師となる山岡邦三郎と増野は実懇で、先年山岡邦三郎家に残されていたアルバム中に若き日の口髭のない青年教役者増野の写真が確認できた。



1888年～89年頃の青年増野悦興(山岡邦三郎文書)

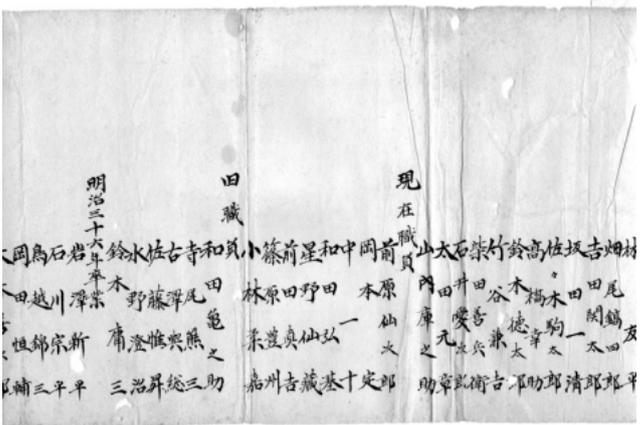
推定の域を出ないが、教育界にも人脈を持つ東京府知事岡部が埼玉県知事伯爵正親町実正に増野を推挙した可能性もある。ちなみに、敬虔なクリスチャンであったが岡部は第二次桂太郎内閣の司法大臣として、幸徳秋水ら大逆事件の一二人の「被告」の死刑執行を即断している。

今回見つかった川越中学校を退職させられた直後の、三月四日付の妻咲子の叔母堀江義子宛書簡には、「縣当局者ト意見兎角不折合」で、



1902年3月4日付 増野悦興書簡(木村滋子氏蔵)

「熱度次第第二昂進」「遂ニ知事更迭ノ機会」に「彼徒ノ素望ヲ達スル始末ト相成リ去月二十四日附ニテ休職ノ辞令ヲ下シ申候」とある。東京で将来について友人らと協議したが、みな「縣官吏ノ暴横ヲ悪マザルハ無ク殊ニ新知事ガ如何ニ前任者ヨリノ申継アリシトハ云ヘ又如何ニ下僚ヨリ追ラレシトハ云ヘ来縣後半ヶ月ノ時日ヲ有シナガラ小生ヲ引見シテ一應ノ取調ヲナス事ダ□セズ處断セシハ教育家ヲ待ツノ道ニ背反セル大々的蛮行ナリトテ非難致候」と記されている。同志社・北米留学で体験した青年教育の理念を、「自修自治自活」精神の涵養として中学校教育に精魂を傾けて取り組んでいた増野にとつて、青天の霹靂ともいふべき休職命令がいかに無念であったかが伝わってくる。正親町の後任知事山田春三は萩出身で、増野



増野悦興見舞拋出者名 [1911.5.] (木村滋子氏蔵)

とは同郷であったが、次の知事木下周一は肥前出身のドイツ帰りで、総理大臣桂の部下だった。

川越中学初代校長増野悦興はキリスト教徒、あるいは肺患故に休職させられたのではなく、県の役人と「不折合」となり、内務省の官僚知事の就任半月にして、面談もなく一方的に職首された。県当局者との教育方針の齟齬だったかどうか定かではない。

一九一一年一〇月一九日、増野悦興は志半ばに四六歳で他界するのだが、一回生で七代校長となる岡田恒輔が師の一〇回忌に刊行した遺稿集『筆華舌英』に、同じく一回生の安部立郎が記した「病床に於ける増野先生の思出」に、同年五月に「知己門弟一同で若干の金額を拠出して、先生静養の資の一端にもと御送りました」とある。今回の資料中には、律儀な筆跡の

増野自筆の拠出者名簿が保管されていた。これは川越中学・川越町の宝物といえよう。

そこには川越町有志の山崎嘉七(亀屋当主)ら三九名、現在職員の校長前原仙次郎ら八名、旧職員との和尾之助(初代教務主任)ら六名、第一回卒業生(明治三三六年)の岩澤新平ら二二名、同半途退学の第三回生の岩岡民治ら二四名、第四回生の石山喜一ら二四名、第五回生一名、第六回生一名の計一四四名の名前が記されている。川越町有志の末尾には廃娼運動を牽引した川越メソジスト教会牧師山内庫之助の名もある。貧窮と病軀にあった初代校長にこれだけの人が増野悦興がいかに慕われていたかを象徴しており、胸を打たれた。(高校一八回)





○会報編集委員会 3～4月は必要に応じ随時開催  
 ○各地区初雁会 定例総会及びその他の事業を随時開催

平成二十二年 事業計画

4月16日(金) 会報発送完了  
 17日(土) 第1回会報編集委員会  
 5月9日(日) 定例総会  
 総会・記念講演・懇親会  
 8月29日(日) 第9回くすの木俳句大会  
 水川会館  
 10月9日(土) 秋季散策会  
 同窓会室  
 (平成23年) 江戸深川発祥の地散策  
 2月26日(土) 定例役員会  
 同窓会室  
 3月26日(土) 定例役員会・会計監査会  
 同窓会室  
 その他  
 ○くすのき句会 原則として毎月第一土曜日に同窓会小会議室で開催  
 ○会報編集委員会 随時開催  
 ○各地区初雁会 定例総会及びその他の事業を随時開催

平成22年度会計予算書

収入総額 28,351,705円  
 支出総額 10,843,104円  
 差引残額 17,508,601円

収入の部

科目	予算額(円)	摘要
入会金	1,860,000	全日制 1,820,000 (5,000×364名)、定時制 40,000 (2,000×20名)
終身会費	2,500,000	高37回生、高27～36回生
名簿販売	1,000,000	200冊
預金利息	15,000	
雑収入	50,000	
小計	5,425,000	
前年度繰越金	22,926,705	平成21年度より繰越
合計	28,351,705	

支出の部

科目	予算額(円)	摘要
事業費	6,902,104	
(1)会報発行費	4,192,104	会報(24,800部)発行・発送
(2)母校教育活動支援費	600,000	SSH事業運営支援、進路指導支援、その他の教育活動支援(各200,000)
(3)諸事業費	2,110,000	地域事業への貢献[110周年記念事業](2,000,000)、秋季散策会補助(100,000)、くすの木俳句大会補助(10,000)
事務費	3,141,000	
(1)通信費	230,000	郵便代、電話使用料、インターネット使用料等
(2)印刷費	100,000	
(3)需用費	100,000	事務用具、消耗品、施設使用料
(4)事務手当	2,581,000	事務手当(2,490,000)、通勤費(91,000)
(5)旅費	100,000	
(6)雑費	30,000	
会議費	300,000	総会・懇親会、役員会、会報編集委員会等。総会記念講演及び文化講演講師謝礼
役員交際費	200,000	地区初雁会等のお祝い金
慶弔費	100,000	叙勲褒章記念品、香典・弔電等
予備費	200,000	
小計	10,843,104	
次年度繰越金	17,508,601	平成23年度へ繰越
合計	28,351,705	

平成21年度終身会費納入者  
 ご芳名  
 ご協力ありがとうございました。

- (高2回) 柴崎育久(再)、矢部敬一郎(再)
- (高5回) 小峯達男
- (高7回) 斎藤正
- (高8回) 小鷹博之、金橋好邦、武野谷茂夫
- (高10回) 神部勉
- (高11回) 新井壤平、大河原太、三上邑男
- (高12回) 石井清
- (高13回) 金子健
- (高14回) 大沢芳文
- (高18回) 犬竹正治、若林正
- (高19回) 関口基男、松田道雄
- (高20回) 正木博則
- (高21回) 小林一夫
- (高22回) 内田敏夫、柿澤日出夫、鎌田一顕、小島泰雄
- (高23回) 後藤俊介
- (高25回) 高山次郎
- (高26回) 梅澤輝男
- (高35回) 田中辰也、中塚晴雄
- (高36回) 井戸大輔、大井川哲也、大塩和正、大淵健司、片井聡、神山正文、佐藤亮一、猿橋秀之、重枝伸之、柴田大、春原一夫、能泰之、長谷川教雄、蜂谷仁、深田弘幸、細野直也、本多啓、松尾淳也、松澤佳彦、矢嶋浩

### 事務局通信

#### 会員名簿第一九号刊行と購入のご案内

会員名簿第一九号は、母校創立一〇周年記念事業の一つとして予定通り昨年一月末に刊行しました。まだ購入されていない方はどうぞお早くご購入ください。頒価は五千円です。

#### 購入申し込みの方法

○昨年お届けした郵便振込用紙がお手元にある場合は、それを使ってお申し込みください。なお住所・氏名の他に卒業回期(又は卒業年度)及び電話番号をお書きください。

○郵便振込用紙がない場合は同窓会事務局までご連絡ください。ファックスと郵便の場合は住所・卒業回期・電話番号をお書きください。

#### 会員名簿第一九号補遺

○(二五頁)「沿革略史」平成十一年の項「同窓会」所沢初雁会設立の一行を最後に追加。

#### 刊行後の賛助金追加

(賛助広告・賛助金ご芳名)欄の二  
十八頁・二十九頁

- 高二回 鈴木 禮八
- 高四回 石井 利司
- 高一八回 吉田 光雄
- 高二二回 松本 晴夫
- 高五二回 高木 一

#### 住所変更等のご連絡と未確認会員についてのご案内

本年度から、住所が判明している会員全員に同窓会報や行事案内文書等を発送することになりましたが、一人でも多くの会員に確実にお届けしたいと考えております。そこでもし住所変更等がありましたら、確かかつ速やかに同窓会事務局までご連絡ください。よろしくお願いいたします。

事務局までご連絡くださいますようお願いいたします。

又、昨年末の会員名簿刊行時点で、住所未確認会員数はまだ六百四十名に達しております。住所未確認者につきましては情報をご存じの方は、ご本人の了解を得た上で事務局へお報せくださいますようお願いいたします。

#### 母校に「文化財保存委員会」設置

今年度から母校に「文化財保存委員会」が設置されます。川越中学校・川越高校に関するあらゆる分野の資料を発掘・収集・保存し、開示・展示することを目的としています。母校の歴史的な資料の収集と保存には、同窓会もこれまで永年にわたり努めてきたことですので、今後密接に提携・協力をしてより大きな成果をあげていきたいと思っております。特に今は旧制中学時代の資料が失われる危機に当面しているようですので、会員皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

### 寄贈書籍紹介

(平成二〇・二一年度)

#### 松本 旭氏(中三五回)

『連歌と俳諧―心敬から芭蕉―』茶へ『風雅の魔心』(松本旭俳論集)

#### 加藤英明氏(中四一回)

『銀盃草』(木村麗水句集)

#### 柴崎甲武信氏(中四八回)

『句集月日』

#### 関口洋介氏(高一一回)

『武甲山 四季彩』(関口洋介写真集) 『美しき奥武蔵』(関口洋介写真集)

#### 小澤克己氏(高二〇回)

『奥の細道―新解釈―旅の事実と旅の真理』 『芭蕉が船でやって来た―奥の細道―深川草加水路』

#### 安藤優一郎氏(高三五回)

『幕末維新 消された歴史―武士の言い分 江戸っ子の言い分』

『幕末武士たちの明治維新』龍馬を継いだ男 岩崎弥太郎『大江戸お寺繁盛記』徳川將軍家の演出力『江戸城大奥の秘密』山岳部OB会

『青春の彷徨』(川越高校山岳部創立九〇周年記念誌)

#### 剣道部OB会

『埼玉県立川越高等学校剣道部50周年記念誌』

#### 高校五回卒業生

『続それぞれの旅』(川越高校第五回生古稀記念誌)

※以上は母校図書館二階の資料室(同窓会小会議室)に常時展示してあります。

#### 表紙写真

①母校創立当初の校舎全景(明治三十二年竣工、コの字形の木造二階建てで、屋根の中央部に王冠型の装飾を戴き、どつりとした堂々たる様式。正門の位置は校舎正面の南側)

②正門と校舎本館(大正元年陸軍特別大演習の本営に定められて校舎の大修理が行われ、正門は改築されて現在位置に変更)

③正門と講堂 講堂は昭和五年新築、その後四十年にわたり川中・川高生の誇りであり、母校のシンボルとなっていた。正門は昭和七年改築、右手奥の講堂と見事な調和)

④木造モルタル新校舎(昭和二十七年落成、本県立校では最後のモルタル校舎)

⑤現在の正門と図書館(右手奥の体育館も共に平成十一年創立百周年記念事業で建設、正門は校歌にある城址に輝く月のイメージ。左手は昭和五十三年完成の校舎本館「管理棟」(鉄筋五階(一部三階)建て)

## 編集後記

ここに『川越高校同窓会報』第66号をお届けいたします。今号から同窓会全員に配布いたしますことになりました。ご覧いただき、お気づきの点などありましたら同窓会事務局宛ご連絡ください。

また、当会報の編集は、これまで川越高校校内幹事の先生方が担当されていましたが、今号から学校外OBにより編集委員が中心になって担当することになりました。以下編集の経過を報告し、編集後記に代えたいと思います。

第一回編集委員会は十一月七日に同窓会小会議室で開催。同窓会事務局長の伊藤豊先生(高2)のご指導の下、『同窓会報』第66号の編集に取り組みことになりました。第一回の集まりで次の編集基本方針を立てました。

一、昨年の同窓会報で決定された会報の全員発送の課題を受けて、宛先が判明している会員二万三千人への発送は、業務上大幅なスリム化が避けられない。そこで、毎号三十頁前後であった頁数を二十頁に縮小する。

二、これまで同窓会報をお届けできていたのは三千名弱という。中大多數の会員が卒業後同窓会報を読んでいないと推測される。そこで同窓会報を初めて手にすることを前提にした編集内容とする。

三、発行時期は定期総会前とし、四月十六日以前の発行を目指して最善の努力をする。

の同窓会報から、総会案内を掲載し、出欠の申し込みがきを添付するためです。

さらに、今号の会報を手にする方のほとんどが初めてであると考えられたため、各地区の全十九初雁会の活動内容を紹介し、OB皆さんに初雁会の存在を知っていただくことと考えました。併せて同窓会各分野の活動から、クラブOB会等の活動内容も紹介しました。総頁数の関係で全部の紹介はできませんでしたが、次号でも紹介してまいります。

また、昭和二十三年から始まった本校定時制課程が、平成二十三年三月で閉じられます。このため今年度は四年生のみで学級となりました。次号では六十年余続いた定時制課程の特集する予定です。

第二回編集委員会で、前号までの記事内容を参考に、二十頁の紙面構成から割り出した各記事の配分等の検討をしました。全員配布を機会に表紙のデザインも一新したいとの意見もありましたが、今号は時間的制約があるので次号以降で検討することにしました。

以後、編集委員会を適宜開催しながら、原稿依頼から割付、印刷発注、校正、そして発送という段取りを経て、無事会員皆さんのお手元に当会報が届けられました。関係した方々に心からの感謝の御礼を申し上げます。(尾崎記)

- 編集委員長 尾崎勝美(高11)
- 編集委員 岡部恒雄(高15)
- 同 圓山壽和(高17)
- 同 栗原由郎(高21)
- 同 内藤 豊(高21)
- 同(校内幹事) 新井敏彦(高44)
- 同(事務局) 伊藤 豊(高2)